

アラガールゴム編機  
〈デリカ用〉

正しい使い方

KR-120型

★お買い上げ誠にありがとうございました。

ブラザーゴム編機の素晴らしい機能とその正しい使い方をご理解いただくために、まずこの説明書をよくご覧下さいますようお願い申し上げます。

※このゴム編機は、以前に発売致しましたKH-110・111(デリカ)の編機にも取り付けできるようになっています。

# 目 次

|                                 |             |    |
|---------------------------------|-------------|----|
| <b>各部のなまえとはたらき</b> .....        | キャリジ .....  | 1  |
|                                 | 本 体 .....   | 2  |
|                                 | 付 属 品 ..... | 3  |
| <b>ゴム編機の組み立て方</b> .....         |             | 4  |
| <b>編む前の知識</b> .....             |             | 8  |
| 1. 編目ダイヤル .....                 |             | 8  |
| 2. カムレバー .....                  |             | 9  |
| 3. 編針の位置 .....                  |             | 9  |
| 4. 半ピッチレバー .....                |             | 9  |
| 5. 振りハンドル .....                 |             | 10 |
| 6. 上下レバー .....                  |             | 10 |
| 7. 本機とゴム編機キャリジの連結を外す場合 .....    |             | 11 |
| 8. 本機キャリジから連結アームを外す場合 .....     |             | 12 |
| 9. ゴム編機キャリジを本体から外す場合 .....      |             | 12 |
| 10. 編んでいる途中でキャリジを外す場合 .....     |             | 12 |
| <b>付属品の使い方</b> .....            |             | 13 |
| <b>編 み 方</b> .....              |             | 15 |
| ①. 1目ゴム編 .....                  |             | 15 |
| ②. 2目ゴム編 .....                  |             | 19 |
| ③. 総 ゴム 編 .....                 |             | 22 |
| ④. 5目ゴム編 .....                  |             | 25 |
| ⑤. 袋 編 .....                    |             | 26 |
| ⑥. “U”字編 .....                  |             | 28 |
| ⑦. 片あぜ編 .....                   |             | 29 |
| ⑧. 両あぜ編 .....                   |             | 30 |
| ⑨. 引上げゴム編 .....                 |             | 31 |
| ⑩. 片あぜ振り編 .....                 |             | 32 |
| ⑪. 振 り 編(1) .....               |             | 33 |
| ⑫. 振 り 編(2) .....               |             | 34 |
| <b>作品を編むために</b> .....           |             | 36 |
| ①. 増 し 目 .....                  |             | 36 |
| ②. 減 ら し 目 .....                |             | 36 |
| ③. 引 返 し 編 .....                |             | 37 |
| ④. ゴム編機から本機に編目を移す場合 .....       |             | 41 |
| ⑤. 本機からゴム編機に編目を移す場合 .....       |             | 42 |
| ⑥. ゴム編のとめ方 .....                |             | 42 |
| <b>操作のガイド</b> .....             |             | 44 |
| 1. 編目が落ちたとき .....               |             | 44 |
| 2. 機械にかけたままで編目を解きたいとき .....     |             | 44 |
| 3. 編んでいる途中でキャリジが動かなくなったとき ..... |             | 45 |
| 4. ゴム編機を取り付けたまま本機だけ使いたいとき ..... |             | 45 |
| 5. 編地を機械から外したいとき .....          |             | 45 |
| 6. 編針の取り替え方 .....               |             | 46 |
| 7. もしもゴム編機の取り付け寸法が悪い場合 .....    |             | 46 |
| 8. 手入れと保存 .....                 |             | 50 |



# 各部のなまえとはたらき



…キャラジ

## 引返シレバー

編む模様に応じて、〈ゴムあみ〉と〈引返しあみ〉の位置に切替えます。

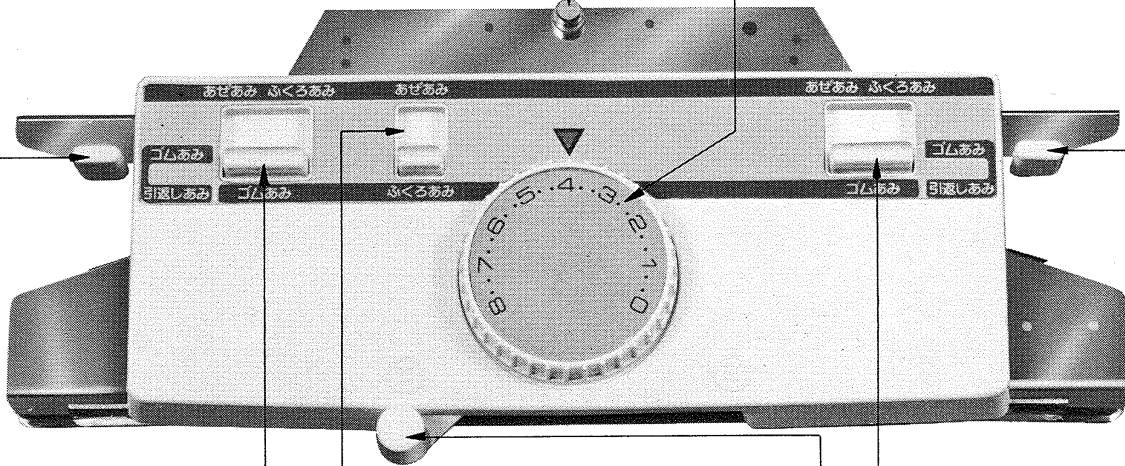
ゴムあみ：普通の位置（E位置の針も編めます）

引返しあみ：引上げ編、引返し編の位置（E位置の針は編めません）

## 連結ピン

## 編目ダイヤル

編む模様、編糸の種類に応じて編目の大きさを調節する役目をします。



## カムツマミM

編む模様に応じて〈ふくろあみ〉と〈あぜあみ〉の位置に切替えます。

あぜあみ：あぜ編などに使います。

ふくろあみ：普通のゴム編と袋編の位置

## カムレバー

編む模様、編糸の種類に応じてI、IIに切替えます。

## カムツマミL

編む模様に応じて〈あぜあみ・ふくろあみ〉・〈ゴムあみ〉の位置に切替えます。

あぜあみ：ゴム編針は作動せず空送りします。

ふくろあみ（袋編、袋止めなど）

ゴムあみ：ゴム編針は、作動して編めます。（普通の位置）

## カムツマミR

ブラケット

ゴム編機を本機に取り付ける役目をします。

振り目盛

振りハンドルの位置を示します。

クシバ

シンカーループを支える役目をします。

ゴム編針

ニードルループを作る役目をします。

ミゾ板

258本の編針を支えています。

ミゾ前板シート

上下レバー

ゴム編機本体を上下に移動する役目をします。

半ピッチレバー

編む模様に応じてP.Hに切替えます。

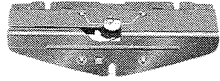
振りハンドル

編む模様に応じて本体を10段(ピッチ)横移動する役目をします。

キャリジ  
ストップ  
ーピン

連結アーム

本機のキャリジとゴム編機のキャリジを連結します。



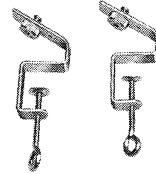
ストッパー右・左

本機編針がとびでるのを防止します。



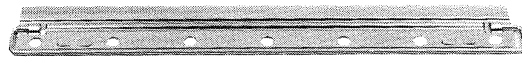
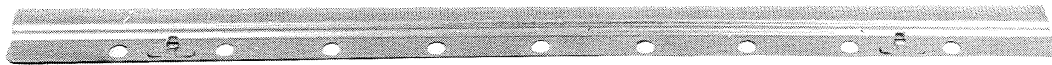
取付金具

ゴム編機専用で本機に取付けます。



編出シ大

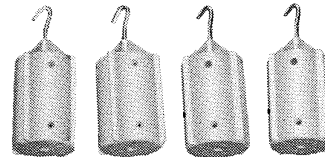
編出しを行なうときに用います。(258目用)  
160目以上のときにお使い下さい。



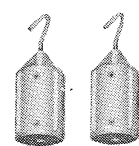
尾 錠

編出し(166目用)兼用で連続して長い編地を編むとき、編地の途中でも容易にオモリかけができます。

オモリ(大)



オモリ(小)



端目押エ



クマデ



スパナ



目拾イ



ゴム編針



針袋



両目ウツシ



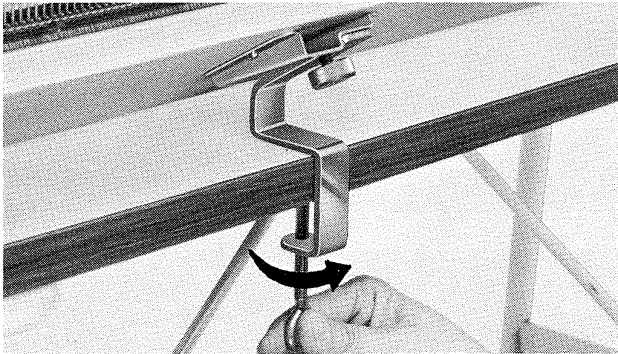
$\frac{1}{1} \times \frac{2}{2}$  模様板



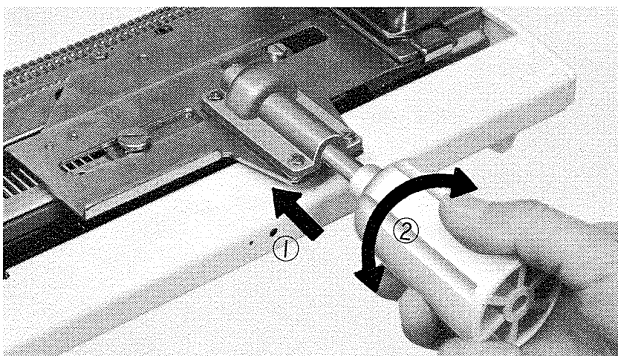
(針袋の中に入れて)  
います。



## ゴム編機の組み立て方

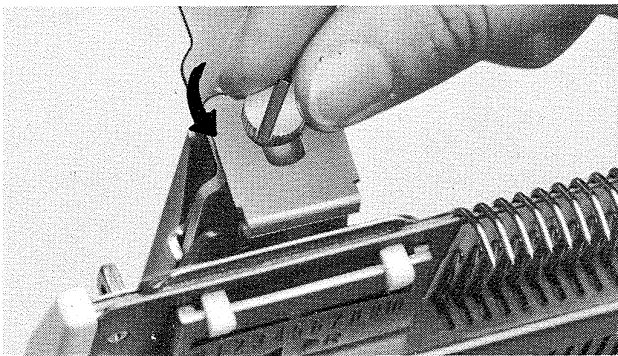


- (1) ゴム編機付属の取付金具で、本機をテーブルに、しっかり取り付けます。

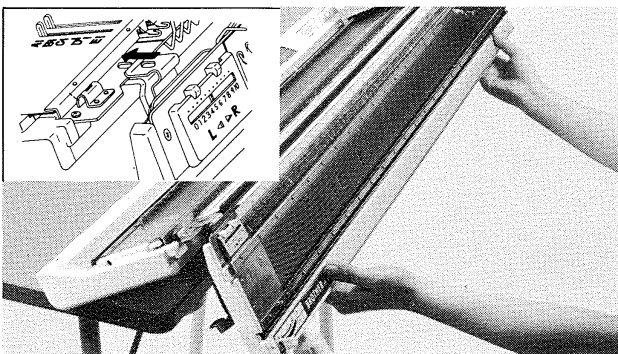


- (2) 本体の裏側にある振りハンドル受の穴に振りハンドルをさしこみ、まわしながらカチンと音がしてとまるまで強く押しこみます。

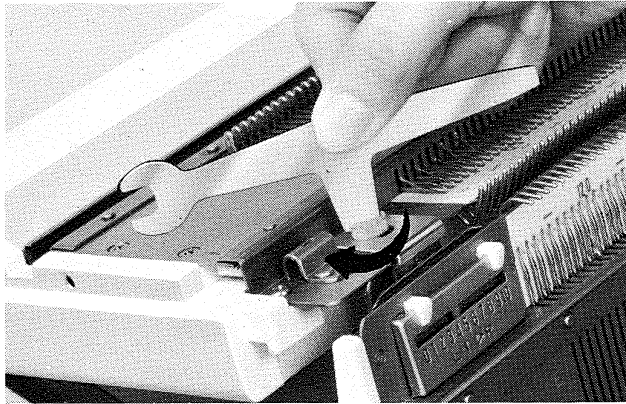
（押しこんだ後、振りハンドルをまわしてカチカチと音がするか確かめて下さい。）



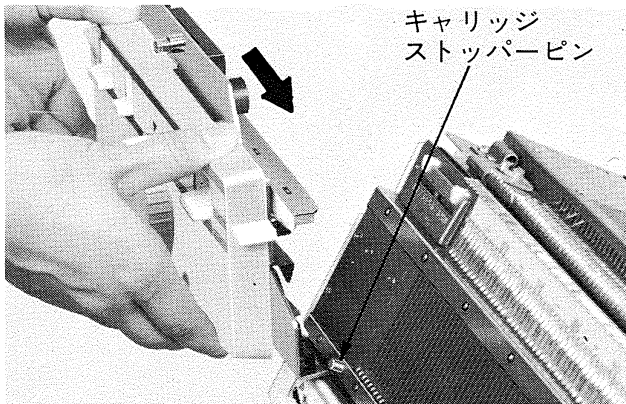
- (3) 左右のブラケットについているゴム編機取付ネジをはずします。



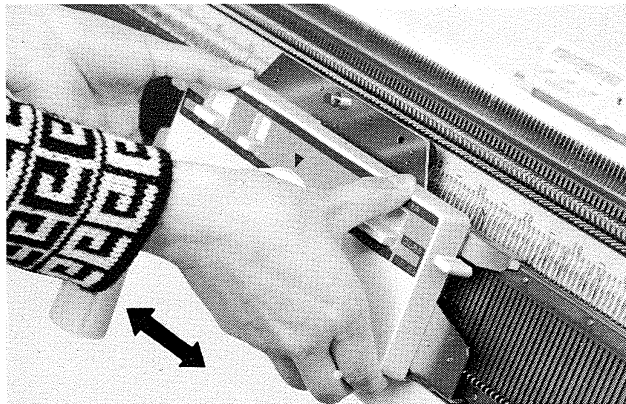
- (4) 両手でゴム編機をもち、ブラケット右を最初に本機の右側の取付穴にさしこみ、次にブラケット左を左側の取付穴にさしこみます。



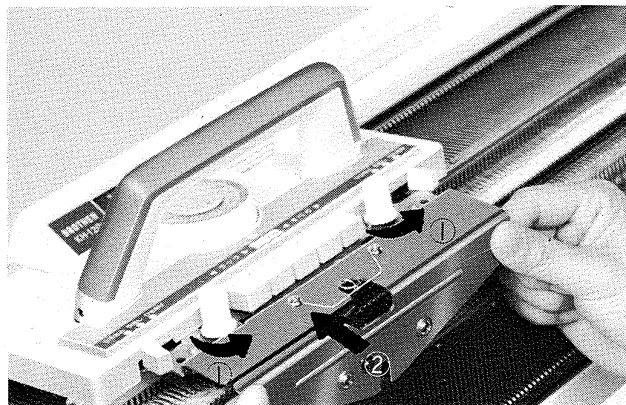
- (5) ゴム編機取付ネジを左右のブラケットに軽くねじ込みゴム編機を一ぱい奥まで押し込みながら、スパナでゴム編機取付ネジを両方共固くしめます。



- (6) 本体の左端から、キャリッジの後足を本体の後レールにはめ、キャリッジストッパーピンにぶつからないように手前に傾けて、キャリッジを横に動かします。

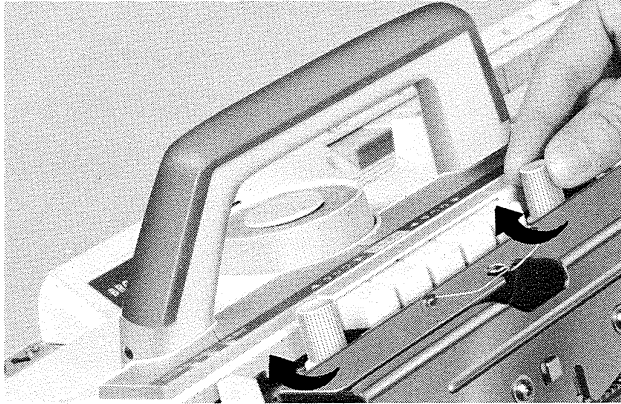


- (7) キャリッジの前足を本体の前レールにはめます。(キャリッジの前足、後足がそれぞれ本体の前レール、後レールにはまり、軽く左右に動くかどうか確かめて下さい。)

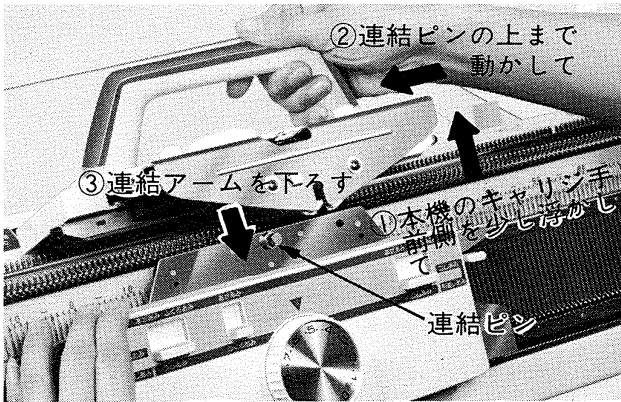


- (8) 本機キャリッジの編地押エツマミをゆるめ、連結アームを編地押エツマミの下に差しこみます。

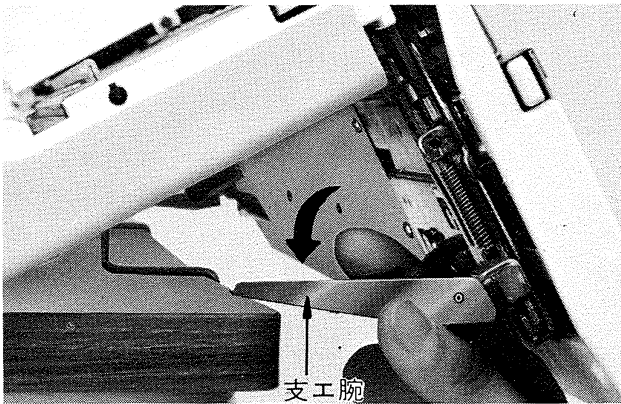




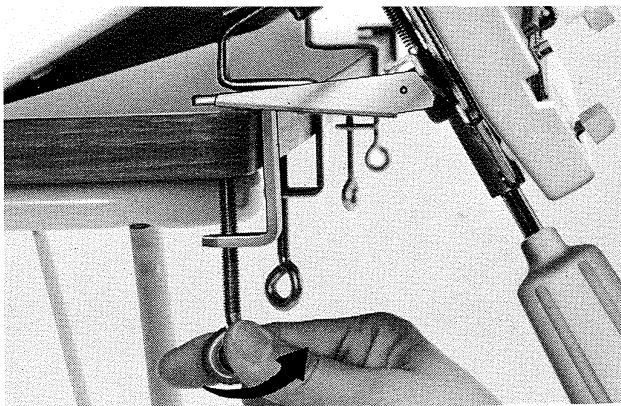
(9) 編地押エツマミを締め付けます。



(10) ゴム編機のキャリジを軽く押さえて、本機のキャリジをゴム編機のキャリジに向かってゆっくり動かしますと、キャリジは自然に連結します。

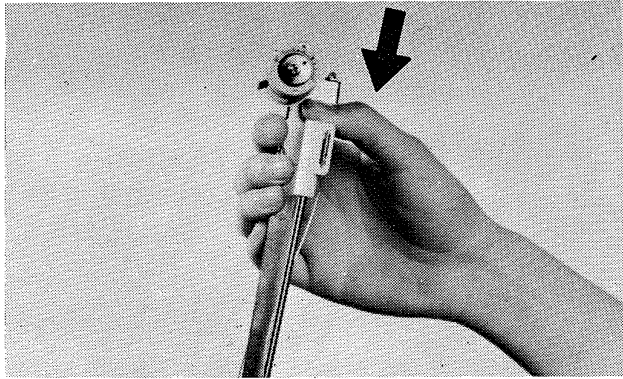


(11) ブラケットの支エ腕を起し、平面部をテーブルの上面に当てます。



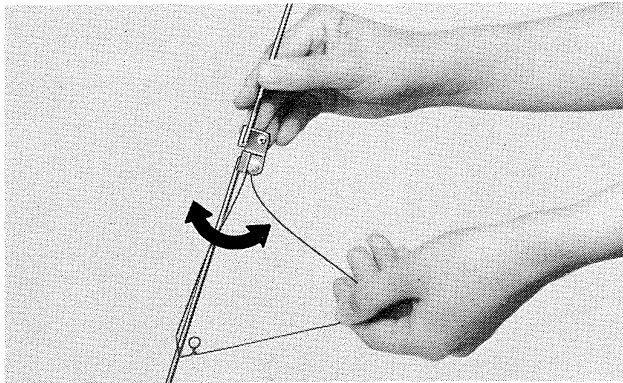
(12) 支エ腕の平面部を本機の取付金具でテーブルに締め付けます。

※KH-110・111に取り付けの場合も本機に、付属の取付金具で締め付けることができます。

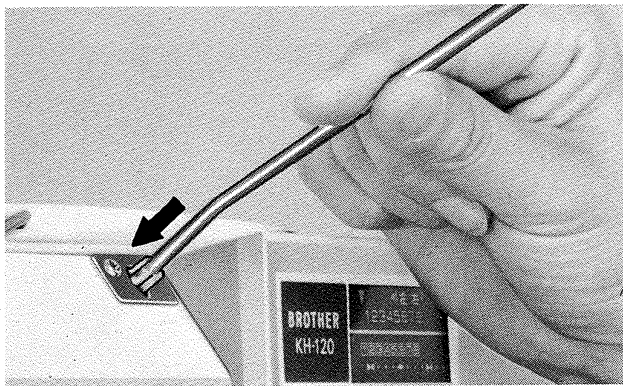


(13) 糸取装置を取り付けます。

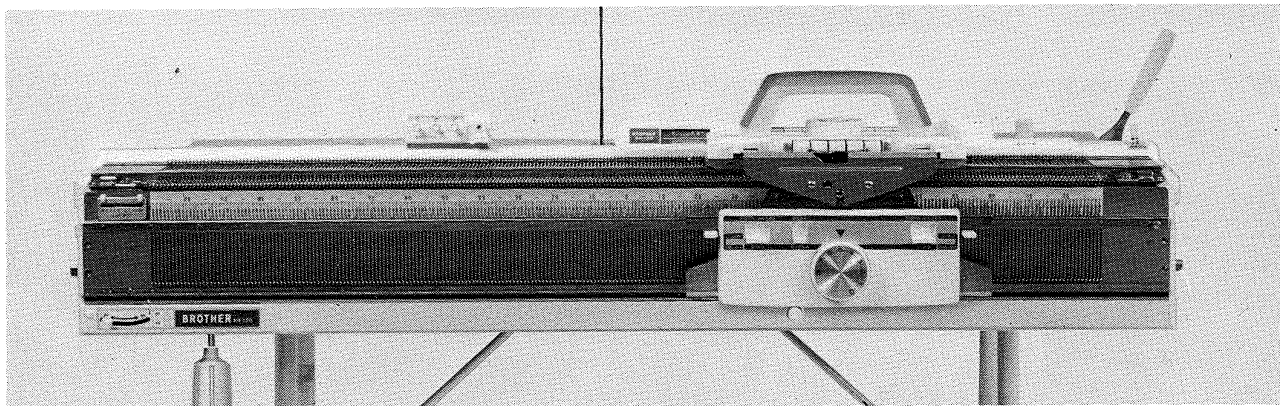
- ① 本機付属の糸取装置の糸取棒から頭部を抜き取り、前後逆向に差し込みます。



- ② 糸取棒の中間部の糸案内を、本機使用時と前後逆向きに起します。



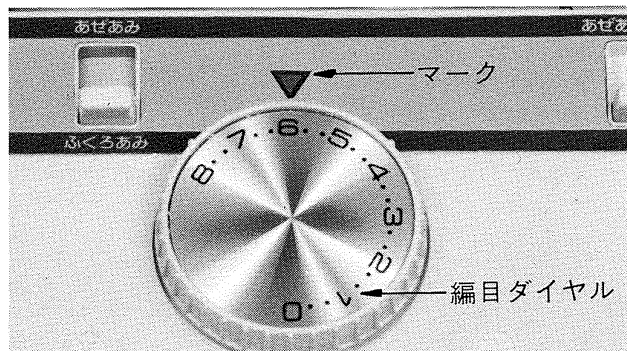
- ③ 糸取棒を前後逆向きに本体の糸取棒穴に差し込みます。(頭部と糸案内を糸取棒に対して逆向きにしましたから、糸取棒だけが逆向きになり糸取棒が前方に立ち上がってきます)。頭部を使用状態に開きます。
- ④ KH-110・111セットのときは本機の使用状態と同じです。



(14) ゴム編機を組み立てた状態を示します。

# 編む前の知識

## 1. 編目ダイヤル



- ☆ 編目ダイヤルには0～8までの目盛があります。
- 編む模様、編糸の種類に応じてカムレバーと併用して選んで下さい。
- ☆ ダイヤルの数字が大きいほど編目は大きくなります。
- ☆ 数字または点を、▼マークに合わせます。
- ※ カムレバーIIの位置では袋編は編まないで下さい。

### — 標準目盛 —

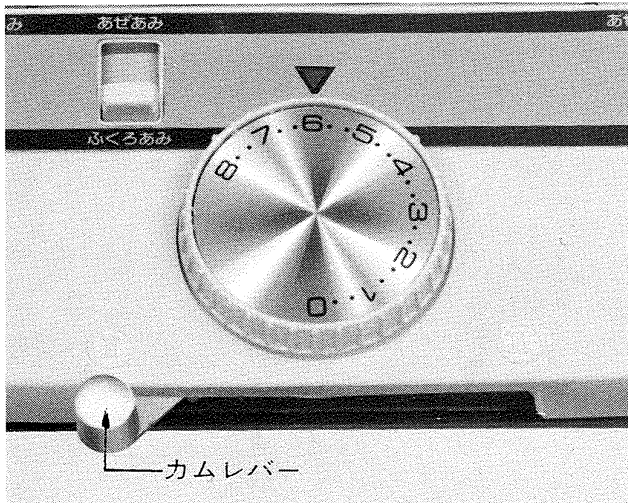
| 編糸の種類 | カムレバー | 編地の種類 |       |      |    |
|-------|-------|-------|-------|------|----|
|       |       | 1目ゴム編 | 2目ゴム編 | 総ゴム編 | 袋編 |
| 極細毛糸  | I     | 0～2   | 2～4   | 3～5  | 6  |
|       | II    | 3～4   | ——    | 5～7  | —— |
| 細毛糸   | I     | 2～3   | 3～4   | 3～4  | 6  |
|       | II    | 4～5   | ——    | ——   | —— |
| 合細毛糸  | I     | 3～5   | 3～5   | 5～7  | 7  |
|       | II    | 5～7   | ——    | ——   | —— |
| 中細毛糸  | I     | 4～6   | 5～7   | ——   | 8  |

- ☆ 標準目盛はKH-120とセットするときを示します。
  - ☆ このゴム機をKH-110・111とセットされる場合はゴム機側の目盛は、そのまま、本機側の目盛は下の編目ダイヤル比較早見表により合わせて下さい。
- 例えばKH-120セットのときに編目ダイヤルが〔本機側(5)、ゴム機側(5)]の場合にはKH-110・111セットでは、編目ダイヤル比較早見表からKH-120の(5)は、KH-110・111の(3)に相当しますので本機側は(3)、ゴム機側はそのまま(5)に合わせます。

### — 編目ダイヤル比較早見表 —

|            | 編目ダイヤル |     |     |     |     |     |     |     |     |   |     |     |     |     |     |     |     |
|------------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| KH-120     | 1      | 1.2 | 2   | 2.2 | 3   | 3.1 | 3.2 | 4   | 4.2 | 5 | 5.1 | 6   | 6.1 | 6.2 | 7   | 7.2 | 8   |
| KH-110・111 | 0      | 0.1 | 0.2 | 1   | 1.1 | 1.2 | 2   | 2.1 | 2.2 | 3 | 3.1 | 3.2 | 4   | 4.1 | 4.2 | 5   | 5.1 |

## 2. カムレバー



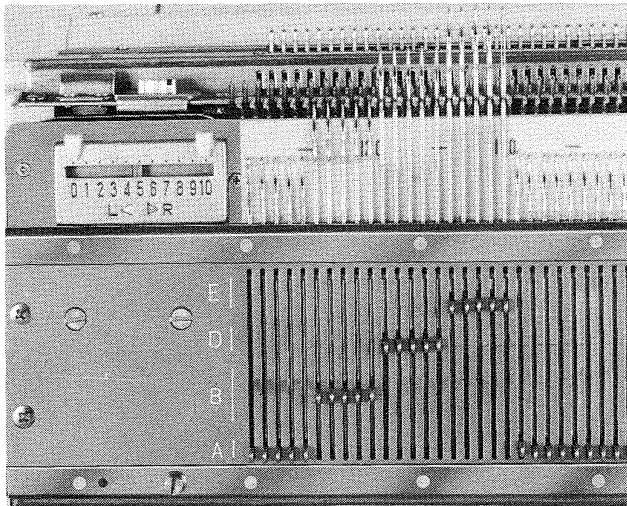
☆ カムレバーを使うことにより目のつんだ編地から、ゆったりした伸びのある編地まで広範囲に編むことができます。

☆ 用途や好みに応じてご使用下さい。

I …… ゆったりした伸びのある編地が、できます。

II …… 目のつんだ細かい編地ができます。

## 3. 編針の位置



☆ ゴム編機の編針には、**Ⓐ****Ⓑ****Ⓓ****Ⓔ**の4つの位置があります。

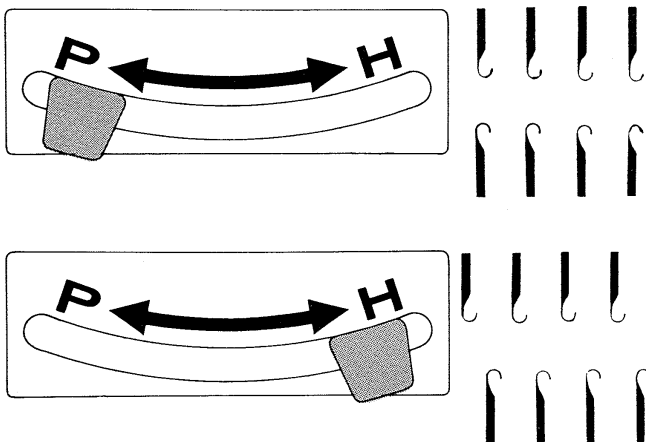
Ⓐ—編まない編針の位置。

Ⓑ—編む編針の位置。

Ⓓ—Ⓔ位置からこの位置まで手で下げると、後はキャリジで自動的に**Ⓑ**位置に下がります。

Ⓔ—引上げ編、引返し編の位置。

## 4. 半ピッチレバー



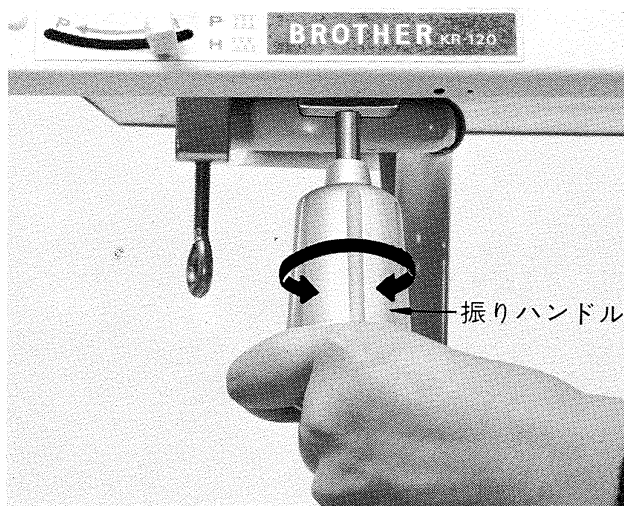
☆ 半ピッチレバーには**Ⓔ**と**Ⓕ**の2つの位置があります。

Ⓔ—本機とゴム編機の編針が突き合わせた状態になります。

Ⓕ—本機とゴム編機の編針が半ピッチずれます。

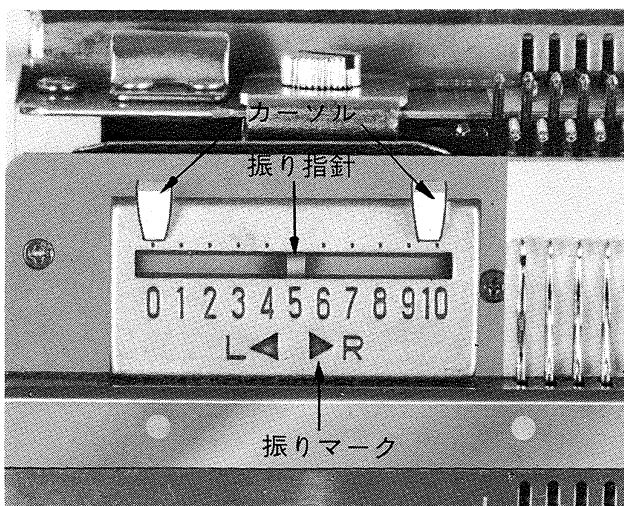
(ピッチとは編針の間隔 3.5mmのことです。)

## 5. 振りハンドル



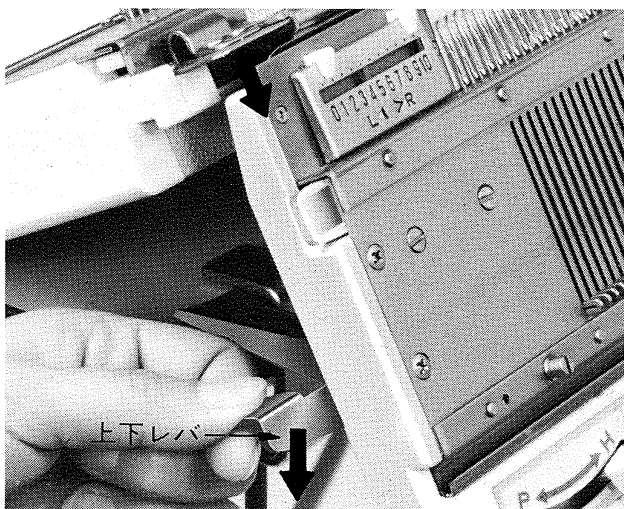
- ☆ 振りハンドルは振り編、片あぜ振り編のように編目を横方向にずらすときに使用し、10段（ピッチ）振ることができます。

両機の編針がクシバより前に出ているときは、振りハンドルは動かさなくて下さい。

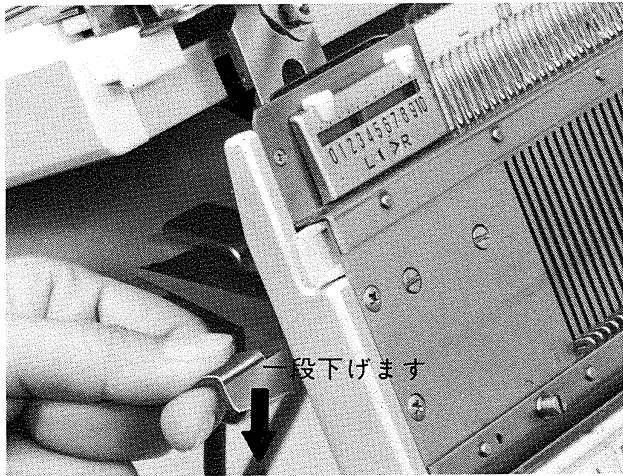


- ☆ 振り指針の示す振り目盛の数字は、振りハンドルの位置を示し、普通は、振りハンドルをまわして振り指針を⑤に合わせておきます。
- ☆ カーソルは、振り幅の目やすに使用します。
- ☆ 振りマーク(矢印)は振った方向を示します。

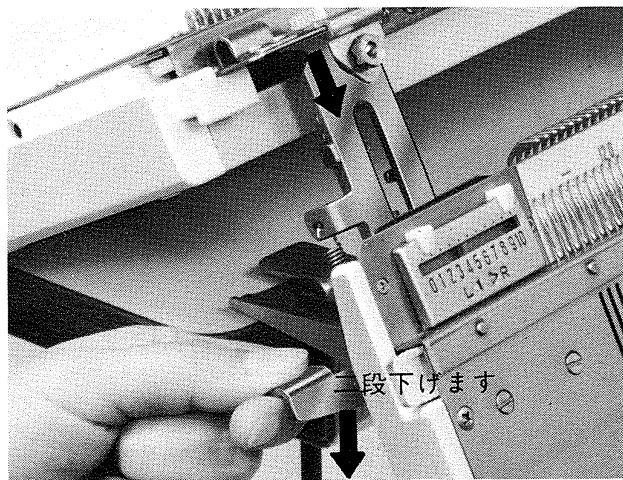
## 6. 上下レバー



- ☆ ゴム編機本体には①②③の3つの位置があります。
- ☆ ゴム編機本体の位置を下げる場合は本機キャリジとゴム機キャリジの連結を外してから(11ページ参照)、上下レバーを左右同時に押し下げるとゴム編機本体が下がります。
- ☆ 上げる場合はゴム編機本体を下から押し上げます。
- ①—編む位置です。

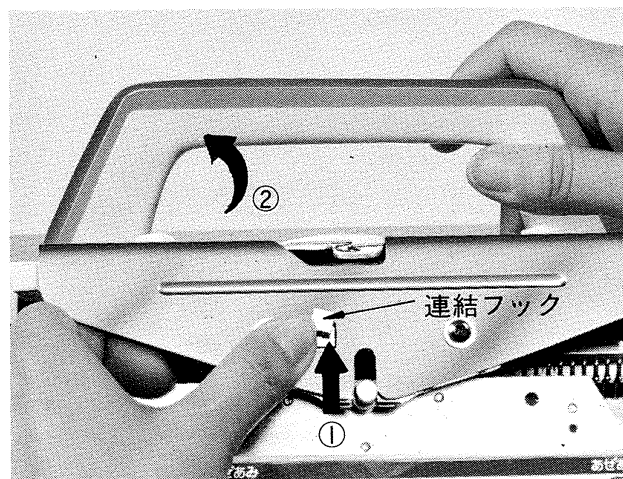


Ⓚ—落ちた目を拾ったり編地を見るための位置です。



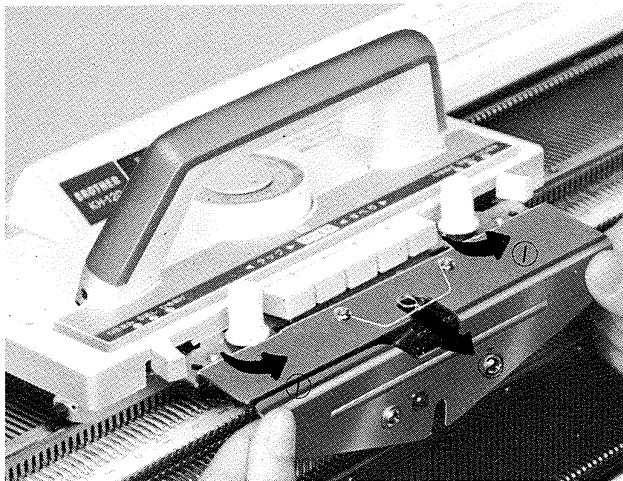
Ⓛ—ゴム編機をつけたまま本機だけを使う位置です。

## 7. 本機とゴム編機キャリジの連結を外す場合



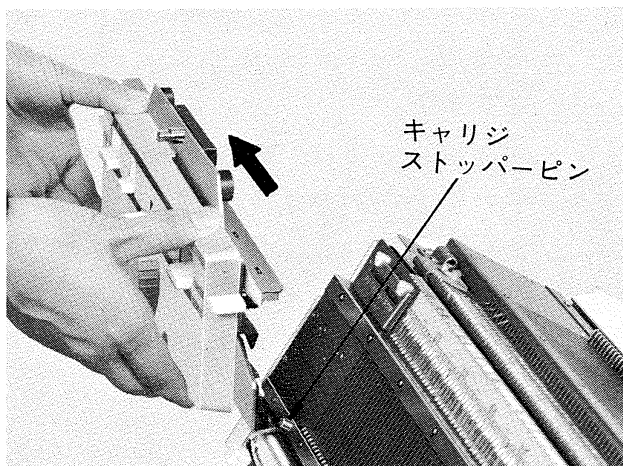
☆ 連結アームの連結フックを矢印の方へ押しあげ、本機キャリジのハンドルを持ちあげますと連結は外れます。

## 8. 本機キャリジから連結アームを外す場合



- ☆ 編地押エツマミをゆるめ、連結アームを少し上にあげながら手前にひくと外れます。

## 9. ゴム編機キャリジを本体から外す場合



- ☆ 本機キャリジとの連結を外してから、キャリジ前足を浮しそのままキャリジストッパーピンを通過させ、外側に拔出します。

## 10. 編んでいる途中でキャリジを外す場合

- ☆ 45 ページをご覧ください。

# 付属品の使い方

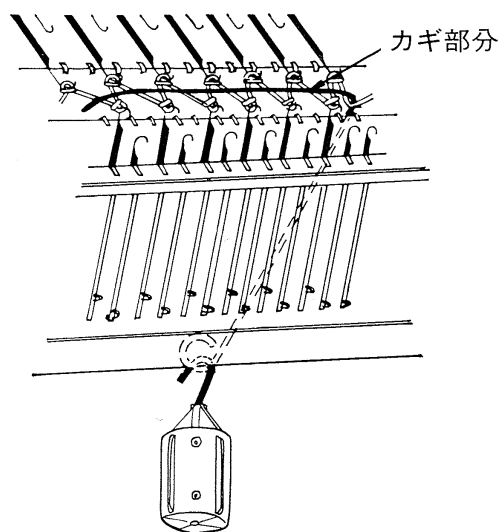
## 1. オモリ

—— 標準オモリ個数表 ——

| 編目数     | オモリ(大) | オモリ(小) |
|---------|--------|--------|
| ～ 50目   | 1      | —      |
| 50～120  | 2      | —      |
| 120～180 | 3      | 2      |
| 180～258 | 4      | 2      |

☆ 編地と目数に応じて使用する個数を加減します。オモリのフック部を向う側にし、編出シまたは尾錠の穴に左右平均にかけます。

## 2. 端目押エ



☆ 本機とゴム編機にかかっている編糸の上に端目押エのカギ部分をかけ、オモリ(小)をかけて使用します。編み進むに従って段々上へかけかえて行きます。

※ 模様によっては、両端が目浮きしやすいことがあります。

また、2目以上の増し目をする場合とか26目以内の編出しの場合の編出シの代りに使用します。

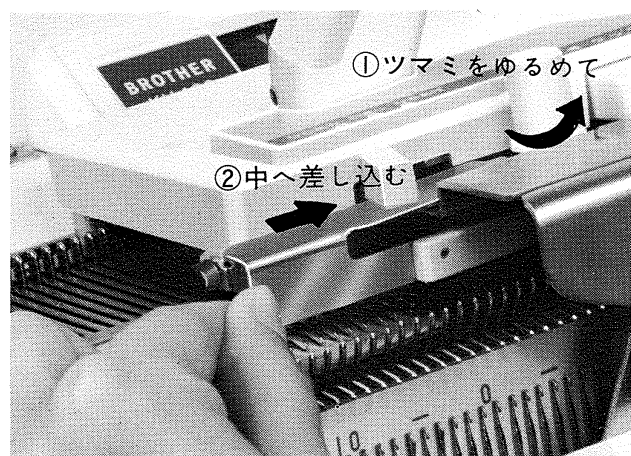
## 3. 目拾イ

☆ 編目が落ちたとき、落ちた編目を拾うのに使用します。

## 4. クマデ

☆ 編地の両端に引っかけ、下の穴にオモリ(小)をかけて使用します。

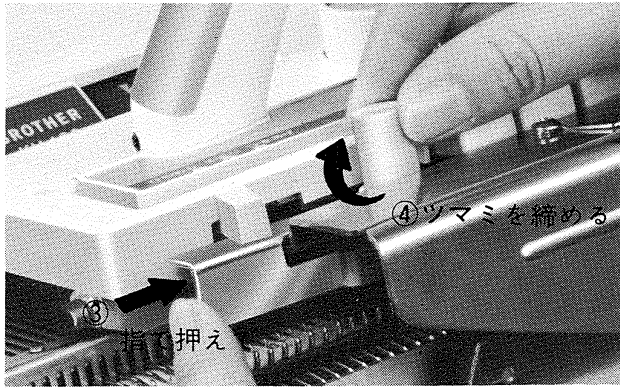
## 5. ストッパー



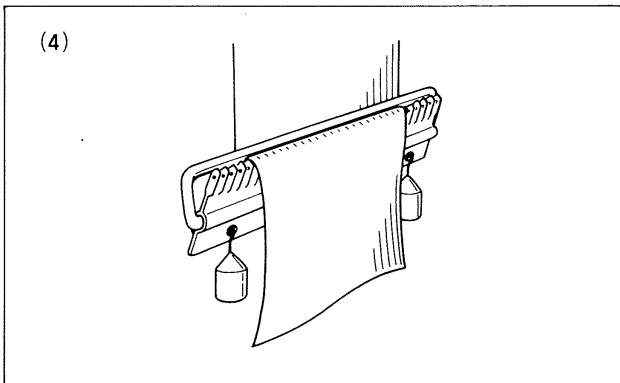
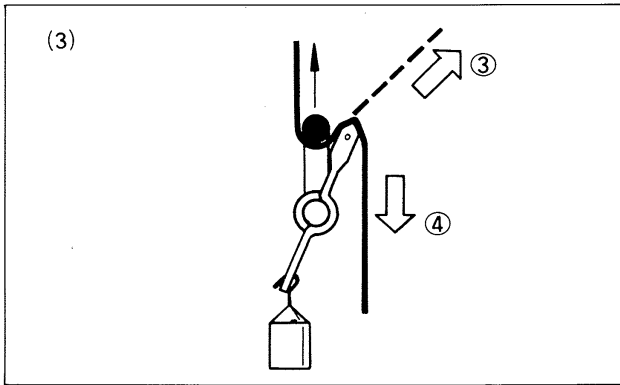
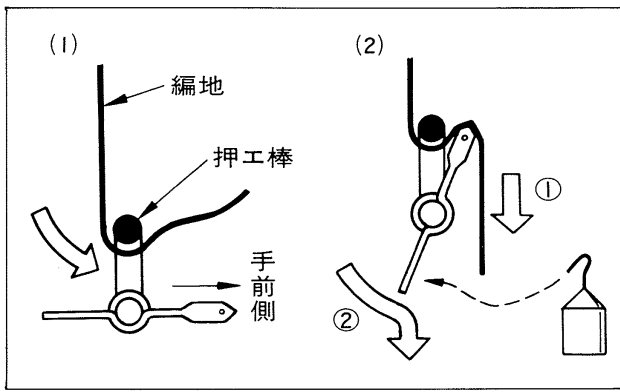
☆ 本機側タックで編成のとき使用します。

本機キャリジの編地押エツマミをゆるめて連結アームの左側にストッパー左、右側にストッパー右をとりつけて締めます。



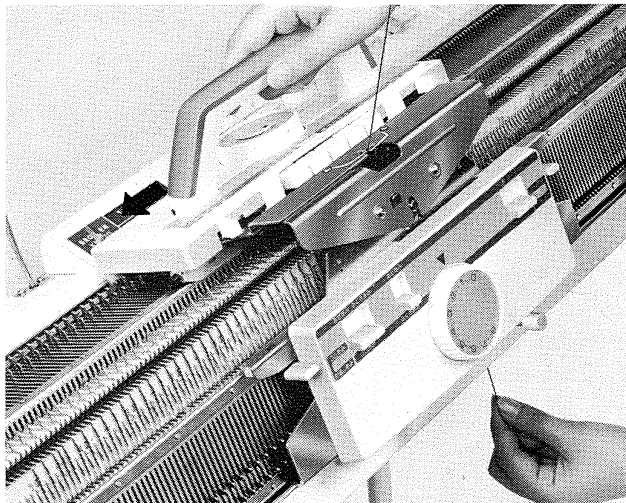


## 6. 尾錠

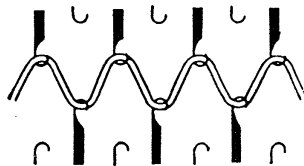


※ 尾錠は、編み出しのほか、次のようにして使います。

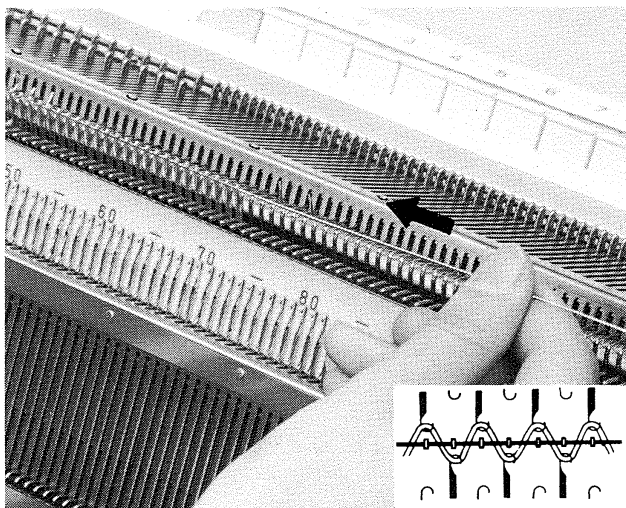
- (1) 尾錠のクシを手前に向け、押エ棒を上向にして編地の端を後から手前に向けて通します。
- (2) 編地の端を下に引き（矢印①）、尾錠を回転させながら下に引きますと、（矢印②）編地は止ります。オモリを掛けます。
- (3) 編み下って尾錠の位置をあげるときは、オモリを掛けたまま、編地の端の方を持ち上げます（矢印③）。尾錠があがったところで編地を下に引きます（矢印④）。
- (4) 編地に重さが平均してかかるようにしてお使い下さい。



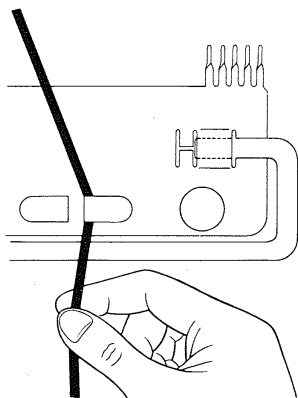
- (4) 糸端を指でつまみ、キャリジをゆっくり右から左へ動かします。  
 (両機の編針に編糸が交互にかかります。)



#### 4. 尾錠かけ



- (1) 尾錠のワイヤーを抜きとり突起を手前にして持ちます。  
 (2) 尾錠が編幅に対してかたよらないように、尾錠のクシを交互にわたっている編糸の間を下から突出し、ワイヤーを通します。(編糸の端が尾錠の手前になるようにします。)



- (3) 編糸の糸端を尾錠の糸掛けにかけます。

#### 5 オモリかけ

- ☆ 編目数に対する標準量のオモリを左右平均にかけます。  
 ここでは、オモリ大を2個かけます。

## 6. 袋止め

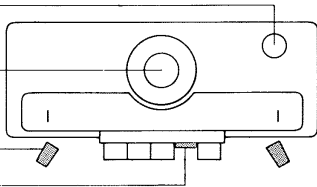
☆ キャリジを図のようにセットします。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

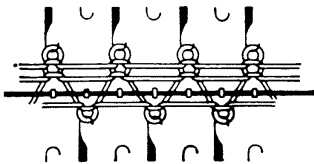
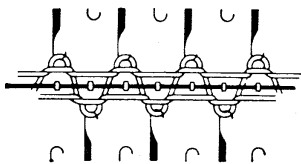
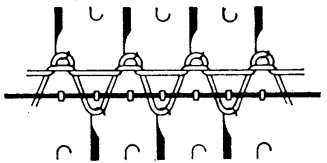
編目ダイヤル(1)

チェンジレバー(1)

カムボタン(すべり左)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)



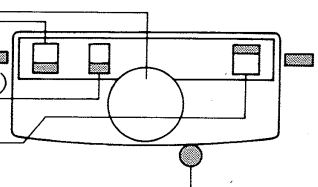
編目ダイヤル(1)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ふくろあみ)

カムレバー(II)



(1) キャリジを右→へ動かします。

(本機編針だけ編めます)

(2) キャリジを左←へ動かします。

(ゴム機編針が編めます)

(3) キャリジを右→へ動かします。

(本機編針が編めます)

これで袋止めはできあがりです。

## II. 1目ゴム編の編み方

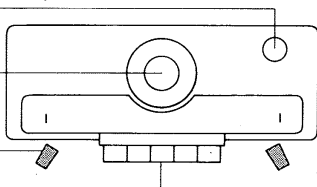
☆ 袋止めが済んだらキャリジを図のようにセットします。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(6)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

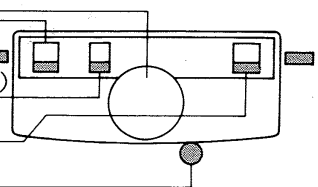
編目ダイヤル(6)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(II)



☆ この状態でキャリジを左右に動かしますと1目ゴム編ができます。

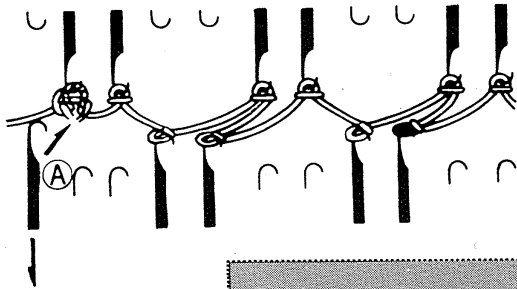
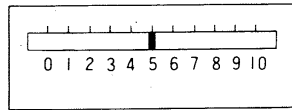
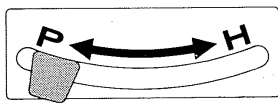
キャリジは途中で戻さないで下さい。

編糸のかかっている編針を完全に通過してから戻します。

編んでいる途中でキャリジが動かなくなった場合は45ページを  
ご覧下さい。

- (1) キャリジを右→へ動かします（本機編針だけ編めます）
- (2) キャリジを左←へ動かします（ゴム機編針が編めます）
- (3) キャリジを右→へ動かします（本機編針が編めます）

## 7. 袋止めから2目ゴム編に移るための針合わせ



編目の移し方は、41ページをご覧ください

- (1) 半ピッチレバーをPにします。
- (2) 振りハンドルを1ピッチ左へまわします。（振り指針⑤）
- (3) 図のⒶ印の編目を本機の左端の編針に移し、空針をA位置に下げます。

## II. 2目ゴム編の編み方

☆ キャリジを図のようにセットして左右に動かしますと2目ゴム編ができます。

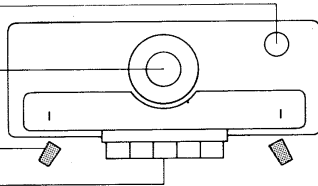
カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(4)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)

※ KH-110・111はチェンジレバー(3)



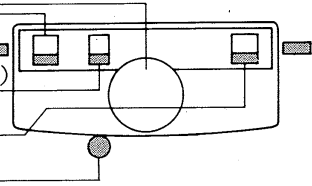
編目ダイヤル(4)

カムツマミL(ゴムあみ)

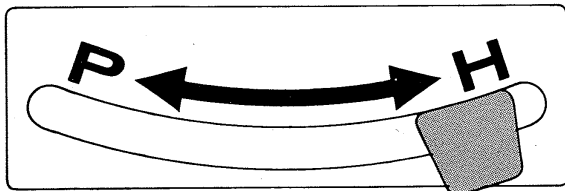
カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

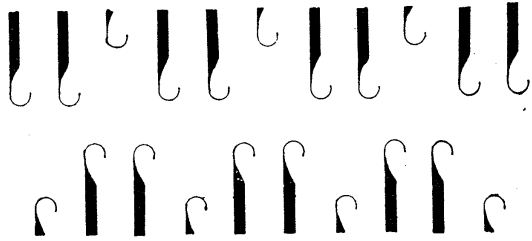
カムレバー(I)



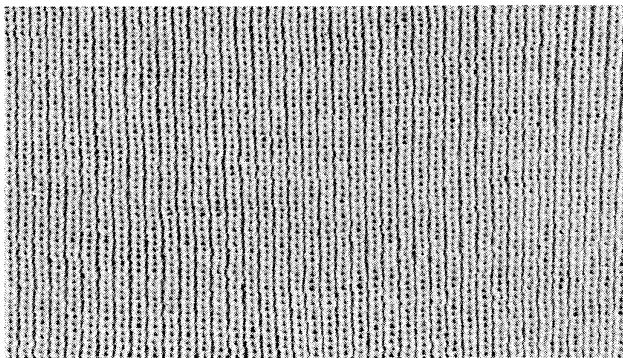
## III. 2目ゴム編の針出しには、次のような方法もあります。



- (1) 半ピッチレバーをHにし、次頁図のように編針を出します。
- (2) 振りハンドルを1ピッチ右へまわし（振り指針④）ゴム編機の左側の編針を1本B位置へ出します。



### 3. 総ゴム編



- (3) (作り目) から (袋止め) までの操作の後、振りハンドルを1ピッチ左へまわします。(振り指針⑤)
- (4) ゴム編機の左端の編目を本機編針に移し空針をA位置に下げます。
- (5) 2目ゴム編はキャリジのセット、編み方とも前の方法と同じです。

- ☆ 編目組織は1目ゴム編と全く同じですが両機の編針を全部出して編むため編目は横のつながりが緊密で編目が美しくでき上ります。
- ☆ ここでは極細毛糸で編んでみます。

#### I. 総ゴム編の編み出し

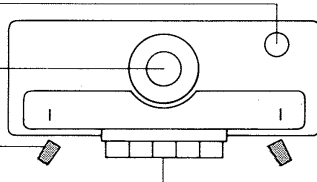
##### 1. キャリジのセット

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(2)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

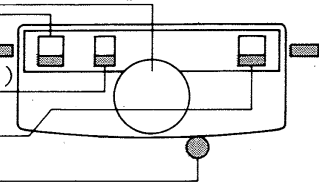
編目ダイヤル(2)

カムツマミL(ゴムあみ)

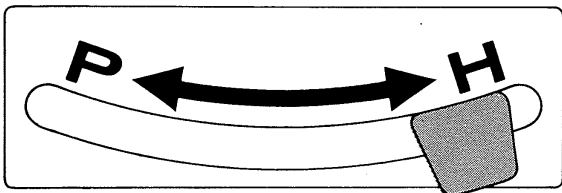
カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(II)

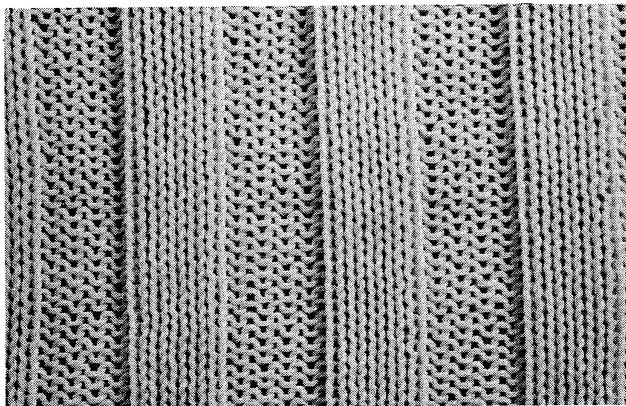


##### 2. 針出し



- (1) 半ピッチレバーをHにします。

# 4. 5目ゴム編



- ☆ 編地は、たてに5目ずつ表目と裏目ができます。  
スポーティーなものに向いています。
- ☆ ここでは合細毛糸を使って編んでみます。

## I. 5目ゴム編の編み出し

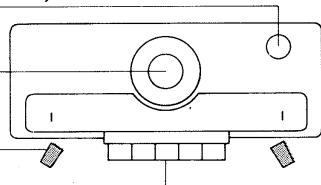
### (1) キャリジのセット

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(2)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



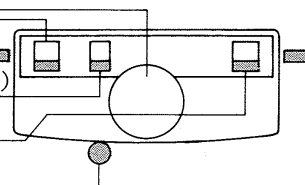
編目ダイヤル(2)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(I)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

(2) 針出し、作り目、尾錠かけ、オモリかけは、総ゴム編と同じです。

(3) 袋止め

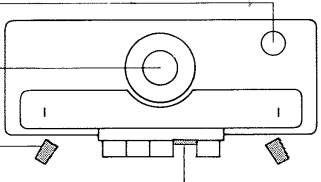
☆ キャリジを図のようにセットします。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(4)

チェンジレバー(1)

カムボタン(すべり左)



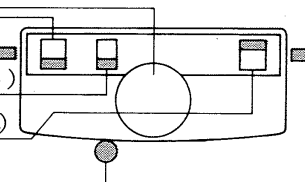
編目ダイヤル(4)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ふくろあみ)

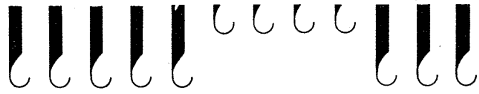
カムレバー(I)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

- ① キャリジを右→へ動かします。(本機編針だけ編めます)
- ② キャリジを左←へ動かします。(ゴム機編針が編めます)
- ③ キャリジを右→へ動かします。(本機編針が編めます)

## II. 5目ゴム編の編み方



- (1) 袋止めがすみましたら両目ウツシを用いて編目を、対応する編機の編針に移し、空針をⒶ位置に下げます。

編目の移し方は、41～42ページをご覧ください。

- (2) キャリジを図のようにセットして左右に動かすと、5目ゴム編ができます。

※ 1段毎に両端の編針を1～5本E位置に出して編んで下さい。

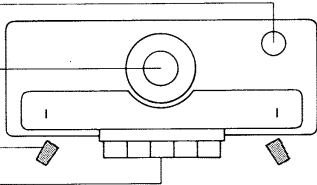
カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(5)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)

※ KH-110・111はチェンジレバー(3)



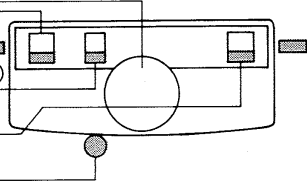
編目ダイヤル(5)

カムツマミL(ゴムあみ)

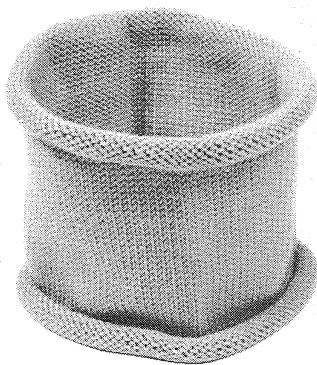
カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(I)



## 5. 袋 編



- ☆ 袋編は平編で継目なしに筒状に編んだものです。筒の太さは編針を出す数で変えられます。

また模様編にも応用されます。作品を作る前にゲージをとって片側にたるみのできる場合にはゴム編機キャリジの編目調節ダイヤルで調整して下さい。

- ☆ ここでは合細毛糸で編んでみます。

### I. 袋編の編み出し

#### 1. キャリジのセット

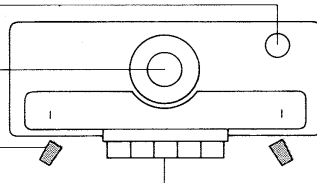
カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(2)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)

※ KH-110・111はチェンジレバー(3)



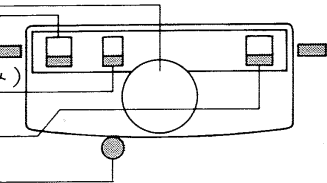
編目ダイヤル(2)

カムツマミL(ゴムあみ)

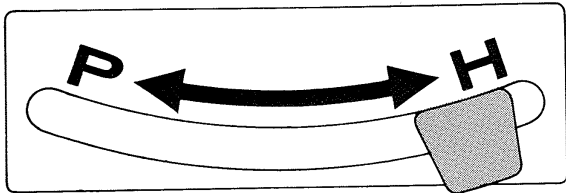
カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

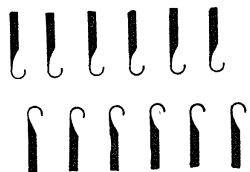
カムレバー(I)



## 2. 針出し



(1) 半ピッチレバーをHにします。



(2) 図のように編針をB位置へ出します。  
(両機編針は、同数にします)

(3) キャリジを2～3回操作してから右側におきます。  
(本機編針とゴム機編針はペラが開いてB位置に揃います)

## 3. 作り目

- (1) 糸口に抜き糸を入れます。
- (2) キャリジを左←へ動かします。(両機の編針に抜き糸が交互にかかります)

## 4. 尾錠かけ

- (1) 尾錠のワイヤーを抜きとり、突起を手前にして持ちます。
- (2) 尾錠が編幅に対してかたよらないように尾錠のクシを交互にわたっている抜き糸の間を下から突き出し、ワイヤーを通します。

## 5. オモリかけ

編目に対する標準量のオモリを左右平均にかけます。  
糸口から抜き糸をはずして編糸を通します。

## II. 袋編の編み方

☆ キャリジを図のようにセットして左右に動かすと袋編ができます。

カム切替つまみ(ひらあみ)

編目ダイヤル(7)

チェンジレバー(1)

カムボタン(すべり左)

編目ダイヤル(7)

カムつまみL(ゴムあみ)

カムつまみM(ふくろあみ)

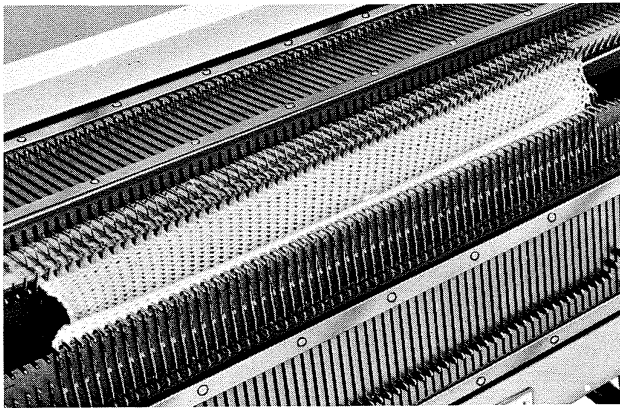
カムつまみR(ふくろあみ)

カムレバー(1)

※ KH-110・111はチェンジレバー(3)



## 6. “U” 字 編



☆ 編地はU字のように片側だけつながる編み方です。258目以上の編幅に編みたいときやスカートなど袋編をしたときの脇あきを作るのに使います。

☆ ここでは合細糸で左あきに編んでみます。

I. “U”字編の編み出しは袋編の編み出し操作をします。

### II. “U”字編の編み方

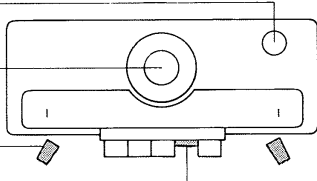
(1) キャリジを図のようにセットして2段 (↷) 編みます。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(7)

チェンジレバー(1)

カムボタン(すべり左)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

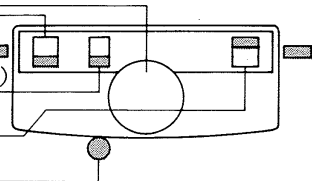
編目ダイヤル(7)

カムツマミL(ふくろあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(1)



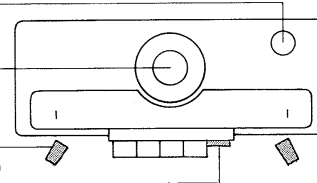
(2) 次にキャリジを図のようにセットして2段 (↶) 編みます。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(7)

チェンジレバー(1)

カムボタン(すべり右)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

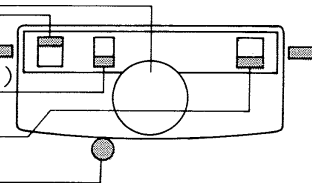
編目ダイヤル(7)

カムツマミL(ふくろあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

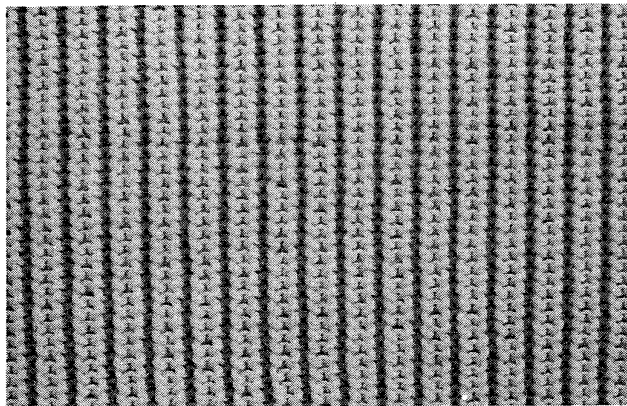
カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(1)



(3) (1)、(2)を繰り返しますと“U”字編ができます。

## 7. 片あぜ編



☆ 総ゴム編または1目ゴム編の片面を  
タックにした編地です。

☆ ここでは合細毛糸で1目ゴム編の片  
あぜ編を編んでみます。

I. 片あぜ編の編み出しは、1目ゴム編の編み出し操作をします。

II. 片あぜ編・両あぜ編共、タックの段の最終端の針がゴム編針のときは、  
その編針をE位置(引返し編のときはD位置)に出してから編んで下さい。

### III. 片あぜ編の編み方

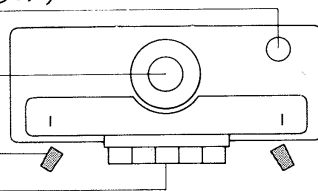
☆ キャリジを図のようにセットして左右に動かすと、片あぜ編ができます。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(6)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

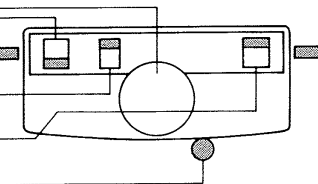
編目ダイヤル(6)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(あぜあみ)

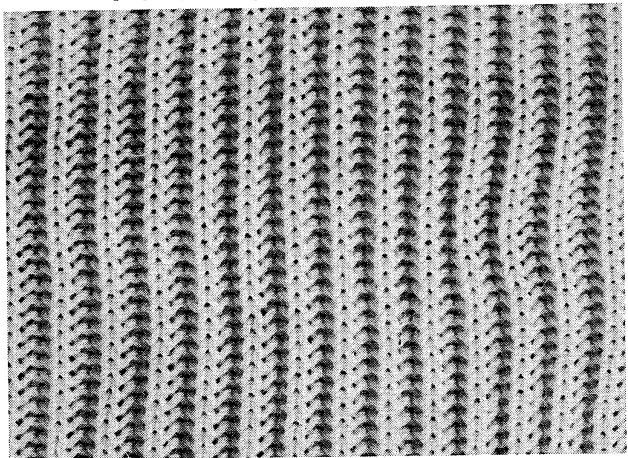
カムツマミR(あぜあみ)

カムレバー(II)



※あぜ編のときは、端目押エを使用して下さい。  
(使用法は13ページを参照して下さい)

## 8. 両あぜ編



☆ 1目ゴム編の両面を1段おきの交互にタック編・ゴム編を繰り返して編む編地です。表裏の編目は同じです。

☆ ここでは合細毛糸で両あぜ編を編んでみます。

I. 両あぜ編の編み出しは、1目ゴム編の編み出し操作をします。

### II. 両あぜ編の編み方

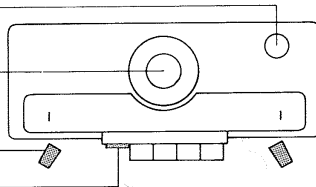
☆ キャリジを図のようにセットして左右に動かすと、両あぜ編ができます。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(6)

チェンジレバー(1)

カムボタン(タック左)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

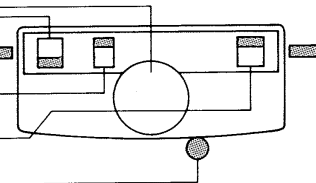
編目ダイヤル(6)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(あぜあみ)

カムツマミR(あぜあみ)

カムレバー(II)

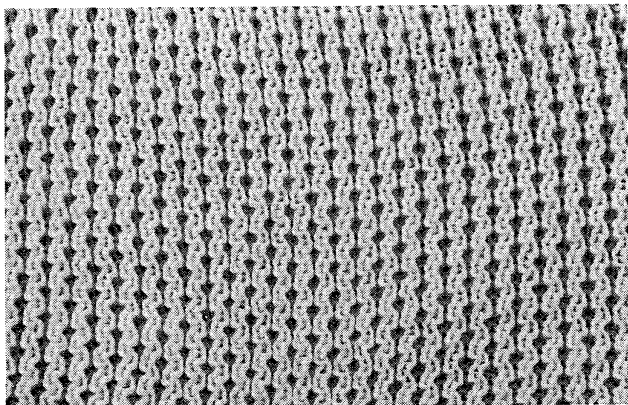


※本機側タックの時はストッパーを使用して下さい。

(使用法は13ページを参照して下さい。)

※本機の編針がB位置より前に出たときは、手でB位置へ押し下げて下さい。

## 9. 引上げゴム編



☆ 総ゴム編または1目ゴム編の本機側を、1目おきに2段ずつ交互にタックにした編地です。

☆ ここでは極細毛糸で総ゴム編の引上げゴム編を編んでみます。

### I. 引上げゴム編の編み出しは、総ゴム編の編み出し操作をします。

### II. 引上げゴム編の編み方

※ 本機側の端の編針が選針されていないときは、D位置に出してから編みます。

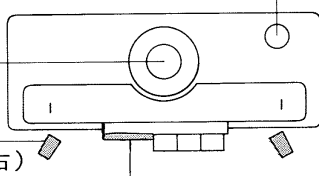
(1) キャリジを図のようにセットして下さい。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(4)

チェンジレバー(1)

カムボタン(タック左右)



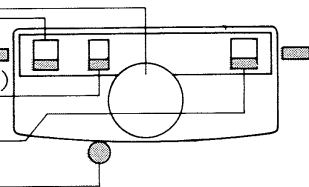
編目ダイヤル(4)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

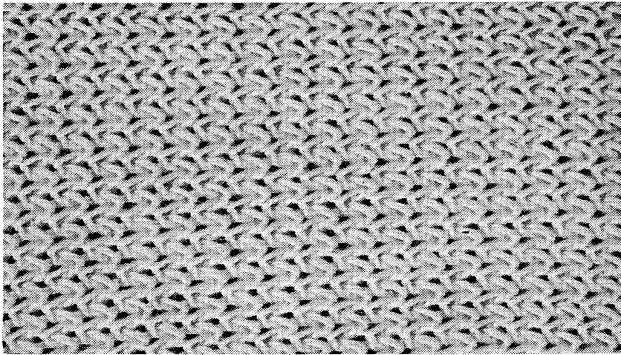
カムレバー(I)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

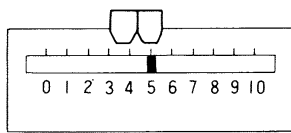
- (2) スライドダイヤルを〔1〕に合わせます。
- (3) 本機の選針ボタン①、③、⑤、⑦を押します。
- (4) 反転レバーを正にして、セットレバーを倒して選針します。
- (5) キャリジを左←へ動かします。
- (6) セットレバーを倒して(3)と同じ編針を選針します。
- (7) キャリジを右→へ動かします。
- (8) 反転レバーを反にしてセットレバーを倒して選針します。
- (9) キャリジを左←へ動かします。
- (10) セットレバーを倒して(7)と同じ編針を選針します。
- (11) キャリジを右→へ動かします。
- (12) (3)～(10)までをくり返します。

# 10. 片あぜ振り編



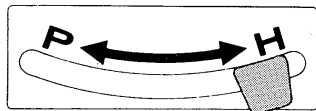
- ☆ 片あぜ編に振り操作を加えた編地です。  
伸縮性がなくやや堅い感じに編めます。
- ☆ ここでは、合細毛糸で1目ゴム編の片あぜ振り編を編んでみます。

## I. 片あぜ振り編の編み出し



- (1) カーソルを④と⑤にセットします。

- (2) 後は、すべて1目ゴム編の編出し操作をします。
- (3) 袋止めが終わったら半ピッチレバーをHにします。



## II. 片あぜ振り編の編み方

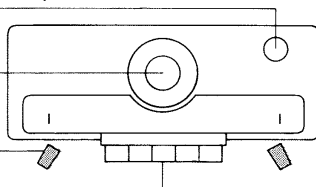
- (1) キャリジを図のようにセットして下さい。

カム切替つまミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(7)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



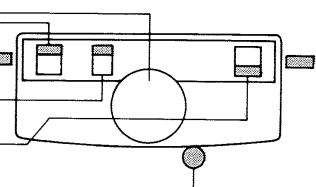
編目ダイヤル(7)

カムつまミL(あぜあみ)

カムつまミM(あぜあみ)

カムつまミR(ゴムあみ)

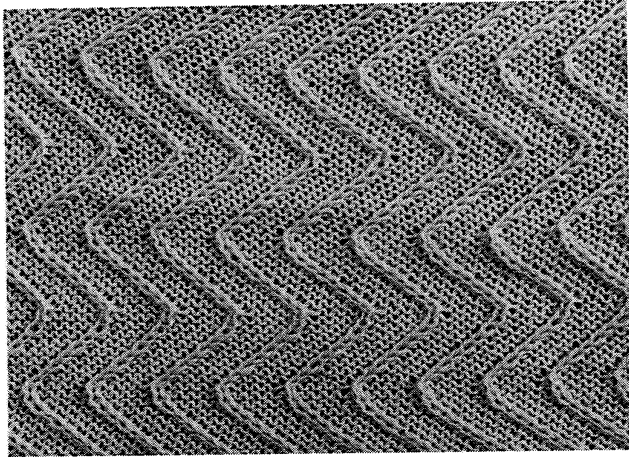
カムレバー(II)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

- (2) キャリジを左←へ動かします。  
(本機編針だけ編めて、ゴム機編針のフックに2本の糸がかかります)
- (3) 振りハンドルを1ピッチ右へまわします。(振り指針④)
- (4) 2段編みます。
- (5) 振りハンドルを1ピッチ左へまわします。(振り指針⑤)
- (6) キャリジを右→へ動かします。
- (7) (2)から(6)までを繰り返します。

# 11. 振り編 (1)

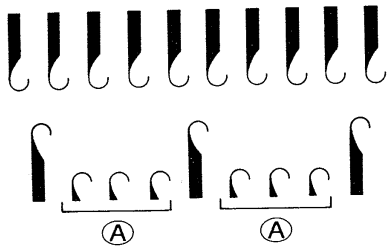


- ☆ ゴム編機側を1ピッチずつ振りながら編みます。
- ☆ ここでは、極細毛糸で編んでみます。

## I. 振り編の編み出しは、総ゴム編の編み出し操作をします。

※ ただし、振り指針を①にします。

## II. 振り編の編み方



- (1) 袋止めがすみましたら、両目ウツシを用いて図のⒶ印の編目を、対応する本機の編針に移し、空針をA位置に下げます。

編目の移し方は、41～42ページをご覧ください。

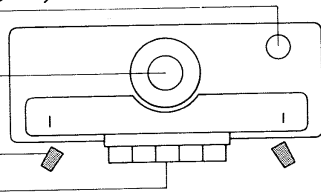
- (2) キャリジを図のようにセットして下さい。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(6)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



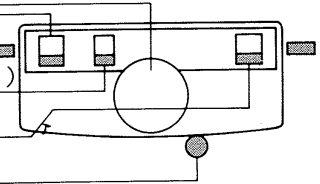
編目ダイヤル(5)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

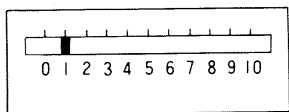
カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(II)



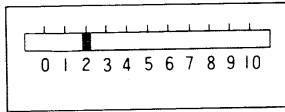
※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

- (3) キャリジを左←へ動かします。(両機編針とも編めます)



- (4) 振りハンドルを1ピッチ左へまわします。(振り指針①)

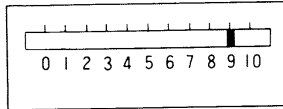
- (5) キャリジを右→へ動かします。



(6) 振りハンドルを1ピッチ左へまわします。(振り指針②)

(7) この様に1段編んでは、1ピッチ振り進み、振り指針が⑩になるまで繰返します。

(8) キャリジを左←へ動かします。



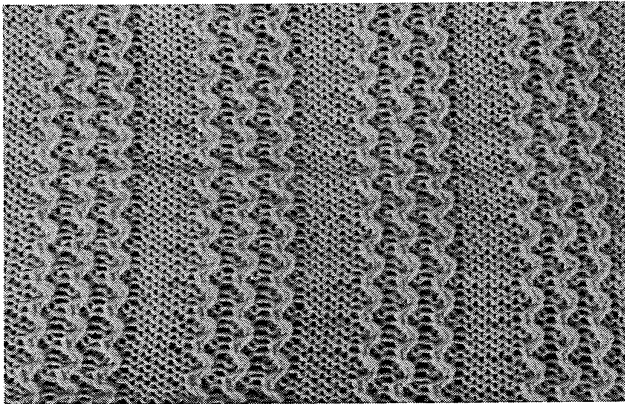
(9) 振りハンドルを1ピッチ右へまわします。(振り指針⑨)

(10) 再び1段編んでは1ピッチ振り戻り、振り指針が①になるまで繰返します。

(11) 以上が一模様です。後は(3)~(10)までを繰返します。

両機の編針がクシバより前に出ているときは、振りハンドルは動かさないで下さい

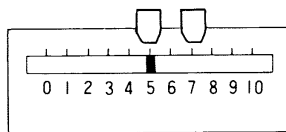
## 12. 振り編 (2)



☆ ゴム編機側を2ピッチずつ交互に振りながら編みます。

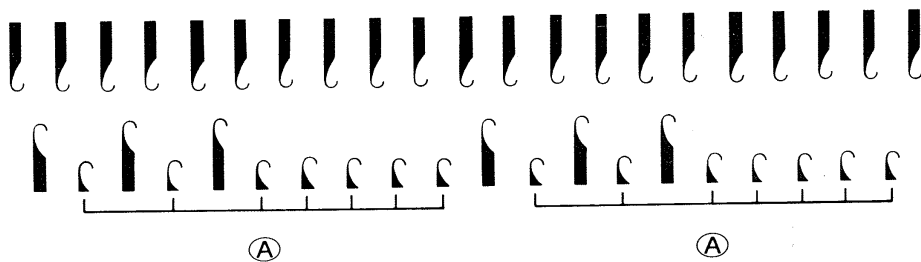
☆ ここでは、極細毛糸で編んでみます。

I. 振り編(2)の編み出しは、総ゴム編の編み出し操作をします。



※カーソルを⑤と⑦、振り指針を⑤にセットします。

II. 振り編(2)の編み方



- (1) 袋止めがすみましたら、両目ウツシを用いて前ページ図のⒶ印の編目を、対応する本機の編針に移し、空針をA位置に下げます。

編目の移し方は、41～42ページをご覧ください。

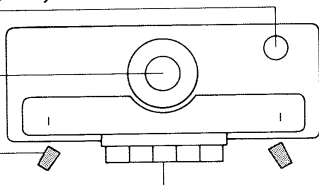
- (2) キャリジを図のようにセットして下さい。

カム切替ツマミ(ひらあみ)

編目ダイヤル(3)

チェンジレバー(1)

カムボタン(ひらあみ)



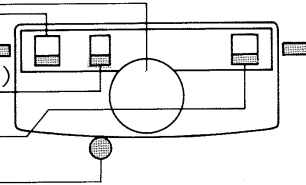
編目ダイヤル(3)

カムツマミL(ゴムあみ)

カムツマミM(ふくろあみ)

カムツマミR(ゴムあみ)

カムレバー(1)



※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

- (3) キャリジを左←へ動かします。(両機編針とも編めます)
- (4) キャリジを右→へ動かします。
- (5) 振りハンドルを2ピッチ左へまわします。(振り指針⑦)
- (6) キャリジを左←へ動かします。
- (7) キャリジを右→へ動かします。
- (8) 振りハンドルを2ピッチ右へまわします。(振り指針⑤)
- (9) (3)～(8)までをくり返します。



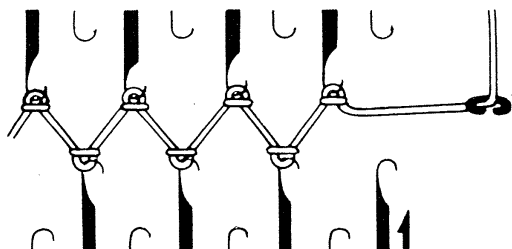


# 作品を編むために



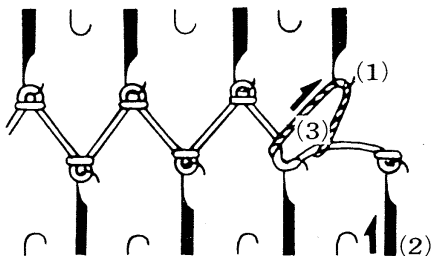
## 1. 増し目

### 1. 編地の端で1目増し目する方法



キャリジを増し目する側に止めておき、「増し目する編針を本機側のとき」、「ゴム編機側のとき」とも1本A位置からB位置に出します。このままキャリジを操作しますと1目増し目ができます。

### 2. 編地の端の1目内側で増し目する方法



キャリジの位置に関係なく編地の端の1目(1)を外側のA位置の編針(2)に移します。空になった編針へ内隣りの裏目(3)をすくってかけます。

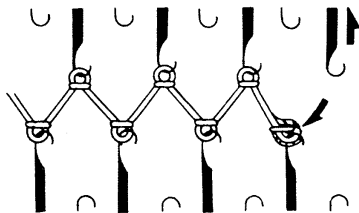
### 3. 2目以上を増し目する方法

キャリジを増し目する反対側に止めておき増し目する数の編針を本機側、ゴム編機側ともそれぞれA位置からB位置に出します。

キャリジを1回操作しますと編糸が両機の編針に交互にかかります。そこへ端目押エとオモリ小をかけ、そのまま編み進みます。

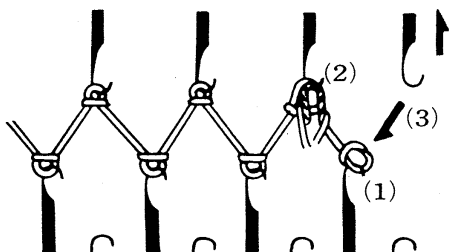
## 2. 減らし目

### 1. 編地の端で1目減らし目する方法



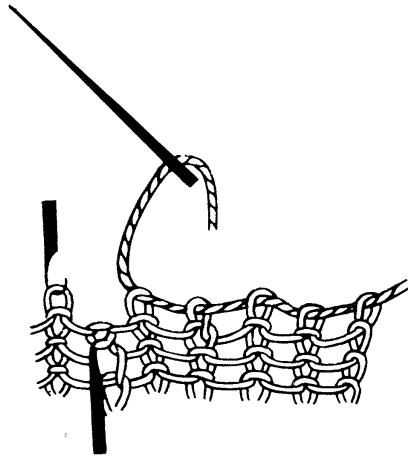
キャリジの位置に関係なく編地の端の1目を内側の編針に移します。空になった編針はA位置に押し下げます。

### 2. 編地の端の1目内側で減らし目する方法



キャリジの位置に関係なく編地の端から2番目の編目(1)を3番目の編針(2)へ移し、編地の端の1目(3)を2番目の編針へ移します。空になった編針(3)はA位置に押し下げます。

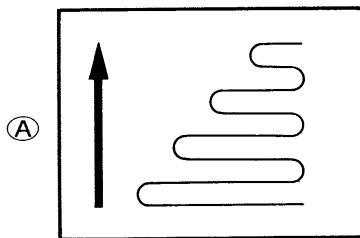
### 3. 2目以上を減らし目する方法



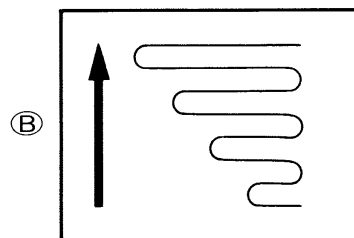
キャリジを減らし目する反対側へ止めておき、減らし目する数の編目をトジ針で別糸を通し編針から外します。  
空になった編針はA位置に押し下げます。

## 3. 引返し編

編む部分により編み減らす場合と、編み増す場合があることは、本機の場合と同じです。



① <編む部分を減らしてゆく場合>

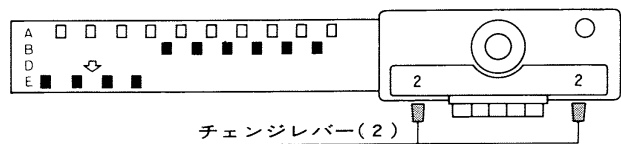


② <編む部分を増してゆく場合>

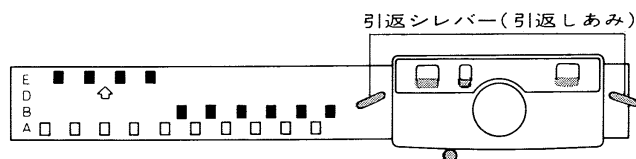
### 1. 1目ゴム編の引返し編

※ 2目ゴム編、総ゴム編、5目ゴム編、片あぜ編、両あぜ編、引上げゴム編などの場合も同様にします。ここでは1目ゴム編で編んでみます。

#### ① 編む部分を減らしてゆく場合



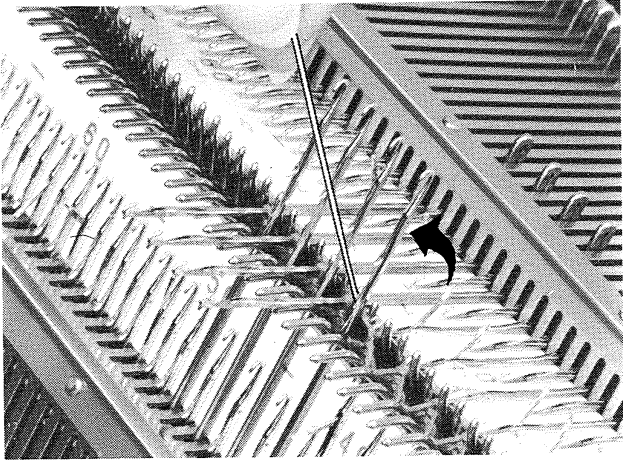
※ KH-110・111はチェンジレバー(1)



- (1) 本機キャリジのチェンジレバーを2 <引返し>、ゴム編機キャリジの引返しレバーを <引返しあみ> にセットしキャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。

(2) キャリジを左←へ動かします。

B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に糸が渡ります。



(3) 引返した部分に穴ができないようにするため、編み終りのとなりのE位置の編針（ゴム編機の編針）の下側に、渡った糸をくぐらせます。

(4) キャリジを右→へ動かします。

(5) これで1回目の引返し編ができました。

以下は、休める編針を増しながら(1)～(4)をくり返しますと、引返し編ができます。

※ 引返し編が終って全体の編針を編みたい時は、本機チェンジレバーを1〈ひらあみ〉ゴム編機引返シレバーを〈ゴムあみ〉に切り替えて編みます。

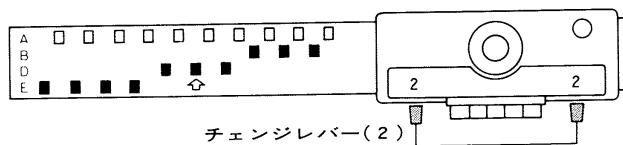
※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

## ⑧編む部分を増してゆく場合

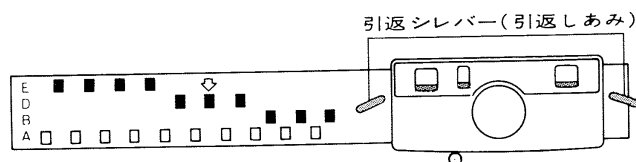
(1) 本機キャリジのチェンジレバーを2〈引返し〉、ゴム編機キャリジの引返シレバーを〈引返しあみ〉にセットします。

※ KH-110・111はチェンジレバー(1)

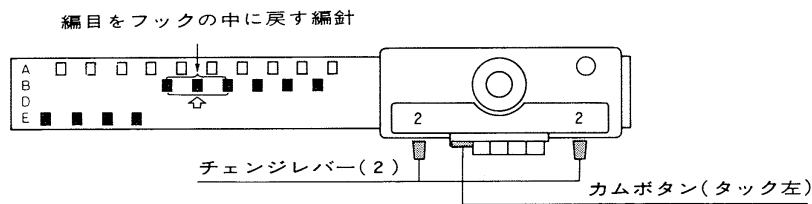
☆ 1目ゴム編、2目ゴム編、総ゴム編などの場合は、本機、ゴム編機とも、キャリジと反対側にあるE位置の編針のうち、編み増す分をD位置に押し下げます。



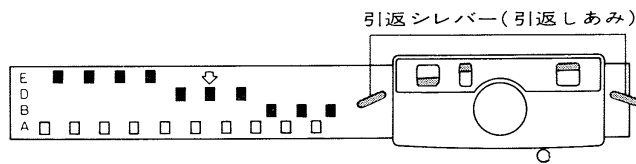
※ KH-110・111はチェンジレバー(1)



- ☆ 片あぜ編、両あぜ編、引上げゴム編などの場合は、D位置に押し下げた編針のタックになる編目をウツシを使ってフックの中に戻しB位置まで下げます。



※ KH-110・111はチェンジレバー(1)



- (2) キャリジを左←へ動かします。  
B・D位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。
- (3) 引返した部分に穴ができないようにするため、編み終りのとなりのE位置の編針(ゴム編機の編針)の下側に、渡った編糸をくぐらせます。
- (4) キャリジを右→へ動かします。
- (5) これで1回目の引返し編ができました。  
以下は、(1)の針下げ～(4)をくり返します。

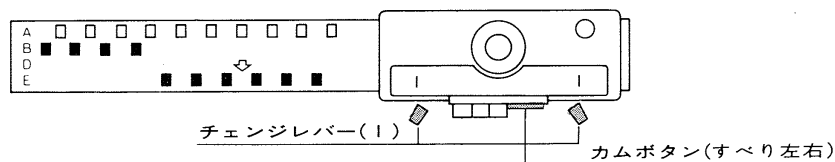
## 2. 振りを使った編み方の引返し編

※ 振り編、片あぜ振り編など振りを使った編み方は、本機とゴム編機の編針を同時にE位置に出すと、編針が交差して振りができなくなりますので、次のような方法で行ないます。

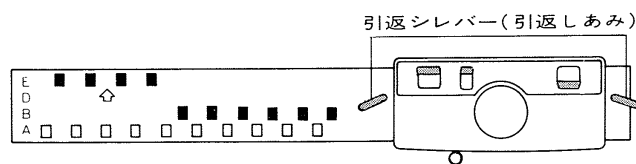
ここでは片あぜ振り編で編んでみます。

### ①編む部分を減らしてゆく場合

- (1) 本機キャリジ及びゴム編機キャリジを図のようにセットします。

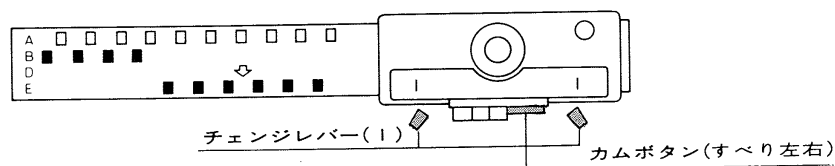


※ KH-110・111はチェンジレバー(3)

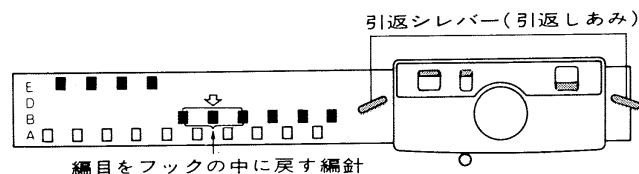


- (2) キャリジと反対側の休める編針のうち、ゴム編針を E 位置に出します。
- (3) 本機の編む編針を 図のように E 位置に出します。
- (4) キャリジを左←へ動かします。  
本機の E 位置の編針及びゴム編機の B 位置の編針が編めて、E 位置に出したゴム編針の上に糸が渡ります。
- (5) 引返した部分に穴ができないようにするため、編み終りのとなりのゴム編機 E 位置の編針の下側に、渡った編糸をくぐらせます。
- (6) 振りハンドルを 1 ピッチ右へまわします。
- (7) 本機の編む編針を E 位置に出します。
- (8) キャリジを右→へ動かします。
- (9) (2)~(5)をくり返します。
- (10) 振りハンドルを 1 ピッチ左へまわします。
- (11) 本機の編む編針を E 位置に出します。
- (12) キャリジを右→へ動かします。
- (13) (2)~(12)をくり返します。

## ⑧ 編む部分を増してゆく場合



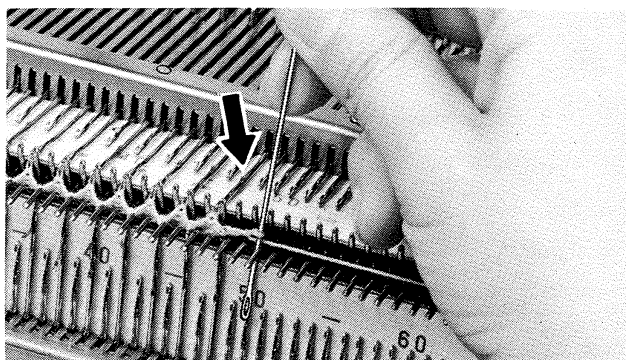
※ KH-110・111はチェンジレバー(3)



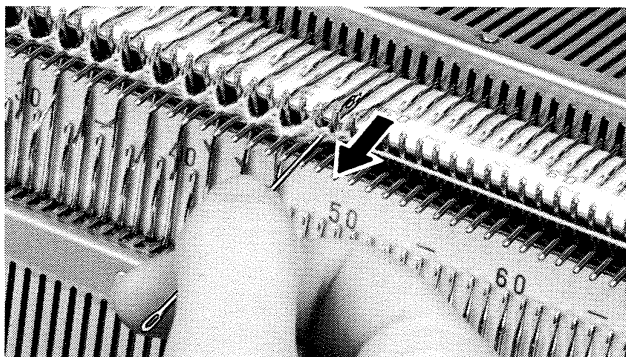
- (1) キャリジのセットは、編み減らす場合と同様です。
- (2) ゴム編機の E 位置にある編針のうち、編み増す分を D 位置に押し下げ、編目をフックの中に戻し B 位置まで下げます。
- (3) 本機の編む編針を E 位置に出します。

- (4) キャリジを左←へ動かします。  
本機のE位置の編針及びゴム編機のB位置の編針が編めて、E位置に出したゴム編機編針の上に編糸が渡ります。
- (5) 引返した部分に穴ができないようにするため、編み終りのとなりのゴム編機E位置の編針の下側に、渡った編糸をくぐらせます。
- (6) 振りハンドルを1ピッチ右へまわします。
- (7) 本機の編む編針をE位置に出します。
- (8) キャリジを右→へ動かします。
- (9) (2)~(5)をくり返します。
- (10) 振りハンドルを1ピッチ左へまわします。
- (11) 本機の編む編針をE位置に出します。
- (12) キャリジを右→へ動かします。
- (13) (2)~(12)をくり返します。

#### 4. ゴム編機から本機に編目を移す場合

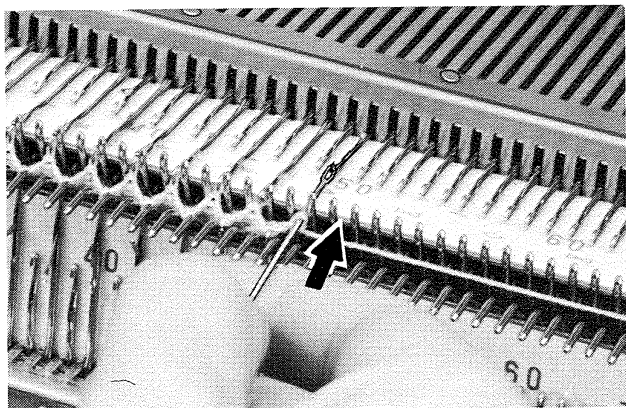


- (1) 本機側のA位置の編針をB位置に出してベラを開いておきます。
- (2) 両目ウツシにゴム編機の編目を移します。



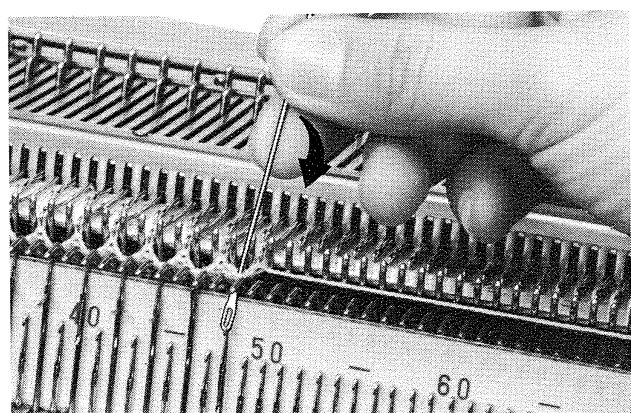
- (3) 両目ウツシの編目を移し取った反対側に滑らせます。
- (4) 両目ウツシからゴム編機の編目を本機の編針に移します。

## 5. 本機からゴム編機に編目を移す場合



(1) ゴム編機側の A 位置の編針を B 位置に出してペラを開いておきます。

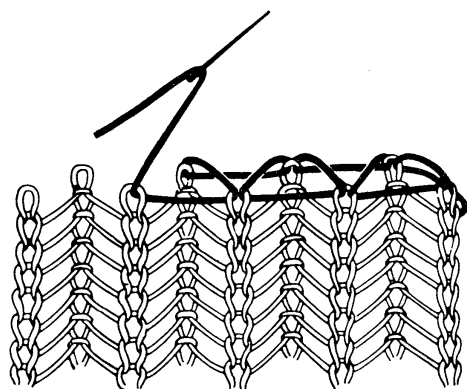
(2) 両目ウツシに本機側の編目を移します。



(3) 両目ウツシの編目を移し取った反対側に滑らせます。

(4) 両目ウツシから本機の編目をゴム編機の編針に移します。

## 6. ゴム編のとめ方

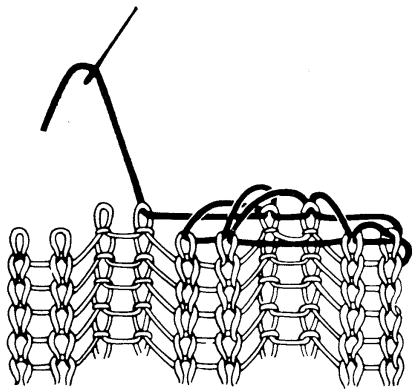


<1目ゴム編>

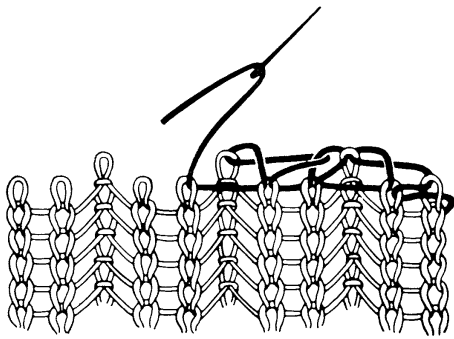
これは最終段の編目を編み終りの端糸でとじることです。

編組織的には編み始めと同じようにするわけです。編み始めと同じ袋編を1段～3段ほど編んでから、とじますと仕上がりがふっくらとしてきれいに見えます。

説明図は、袋編をしてありませんが袋編をする場合でも編目に糸を通す順序は同じです。とじ糸は編幅の3倍ほどに切りトジ針(別売)に通します。後は図のような順序でとじていきます。このとき、とじ糸を強くひきすぎますと編目を伸ばしたとき、引きつってしまいますからご注意ください。



< 2目ゴム編 >

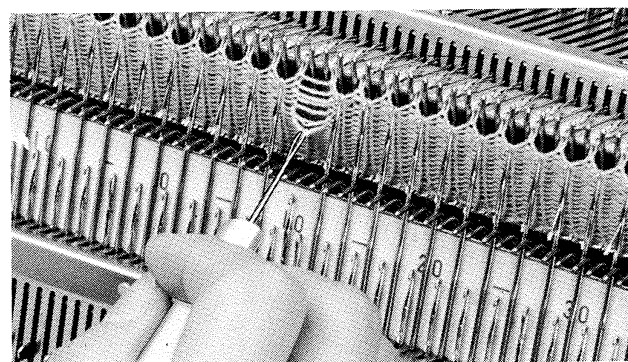
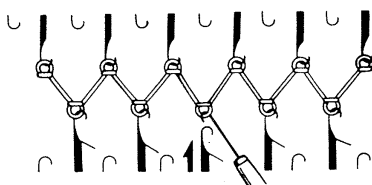
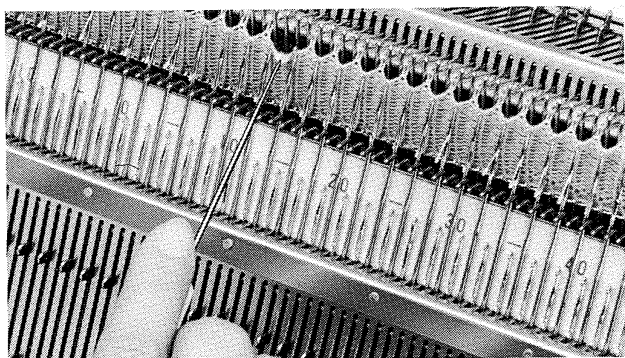


< 2目1目ゴム編 >



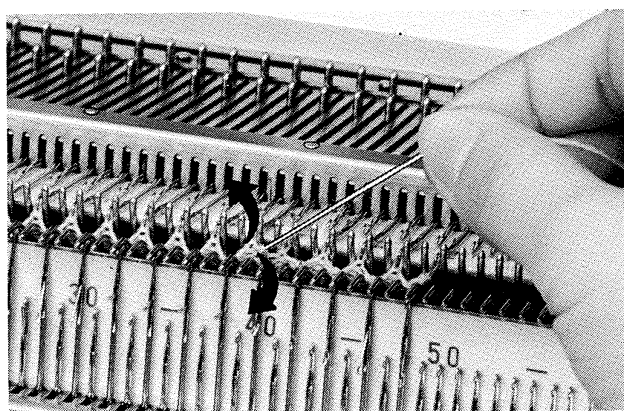
# 操作のガイド

## 1. 編目が落ちたとき



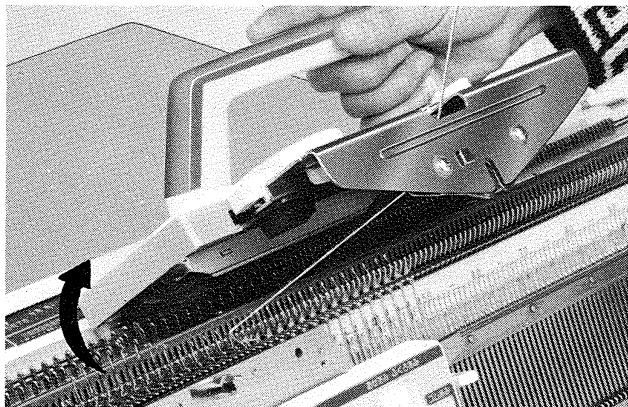
- (1) まず、オモリを外して編目がさらに解けるのを防ぎます。
- (2) キャリジの連結を外しゴム編機本体をⓐの位置に下げます。
- (3) 1目から3目位の解けた目落ちは、そのまま目拾いで拾って編針にかけ編針で目作りをします。
- (4) 大きく編目が解けてしまったときは、編目のできているところよりタップでひろって編目を作ってから編針にかけます。

## 2. 機械にかけたままで編目を解きたいとき



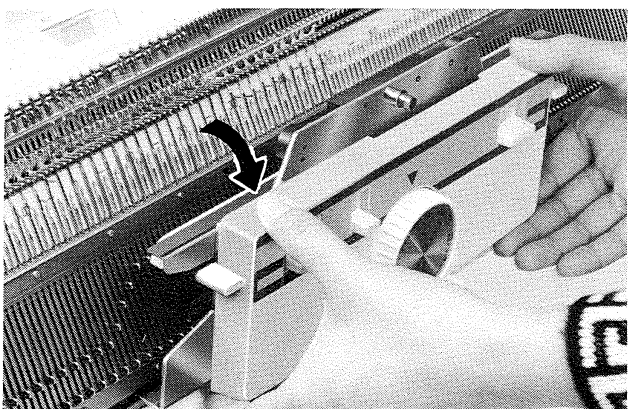
- ☆ 平編のときと同じように、編み終りの編糸をひきながら、本機とゴム編機の編目を交互にほどきます。

### 3. 編んでいる途中でキャリジが動かなくなったとき



- (1) キャリジの連結を外し（外し方は11ページ参照）

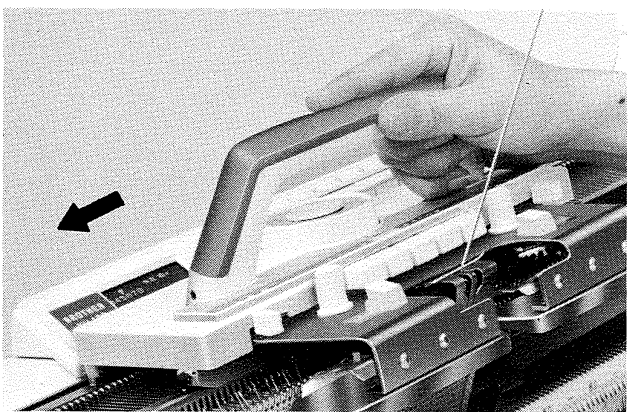
本機のキャリジは、前を上げて編み始めた位置に戻します。



#### ☆ ゴム編機キャリジは……

- ① ゴム編機のキャリジは、前足側を手前に傾けてそのまま横にずらして、編み始めた位置に戻します。
- ② 戻した後、本機キャリジに連結します。

### 4. ゴム編機を取り付けたまま本機だけ使いたいとき

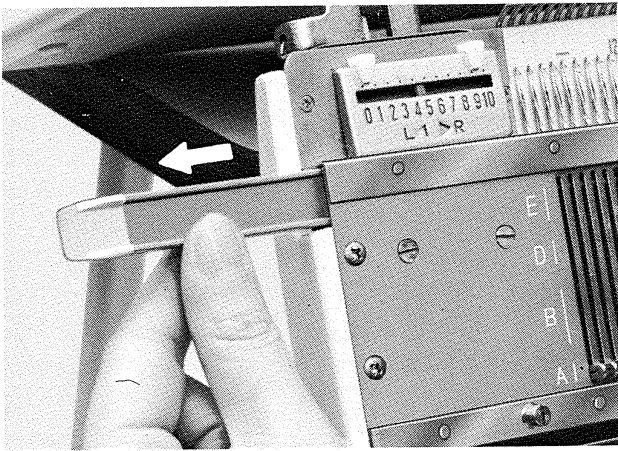


- (1) ゴム編機本体を㊦の位置にします。
- (2) 本機キャリジに取りつけてある連結アームを編地押エ(本機用)に取り替えます。  
(編み方は、本機のみの場合と同じです。)

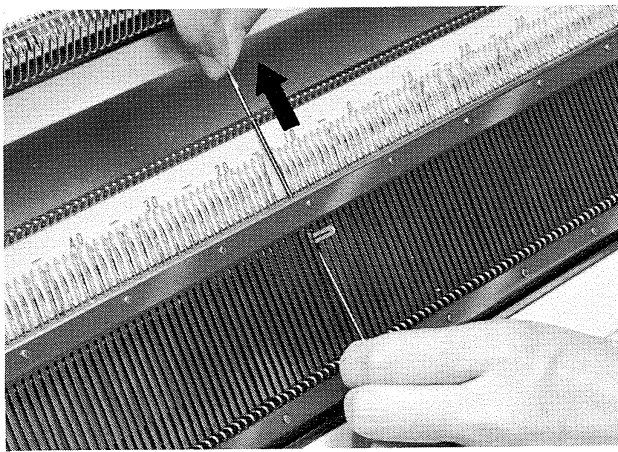
### 5. 編地を機械から外したいとき

☆ 別系で5～6段捨編をしてからオモリを外し、最後の編目の直後で編糸を切り、キャリジをゴム編セットで空操作して編地を外します。

## 6. 編針の取り替え方



- (1) 針押エを片側からミゾ板の中へ押し込み、反対側から引き出します。



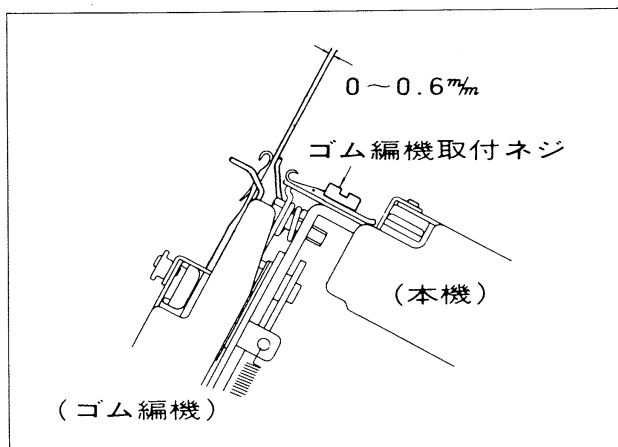
- (2) 取り替える編針のバットを針ミゾの最上部(E位置より上)に押し上げてつまみを上げますとシャックが針ミゾより出ますから下に引き抜きます。
- (3) 新しい編針を(2)と逆の順序で入れます。(ベラを開いておくと入れやすいです。)
- (4) 針押エを差し込みます。

## 7. もしもゴム編機の取り付け寸法が悪い場合

☆ 本機にゴム編機を取りつけるだけでゴム編機は、使用できますが、取り付け寸法が悪い場合は、次の調整を行なって下さい。

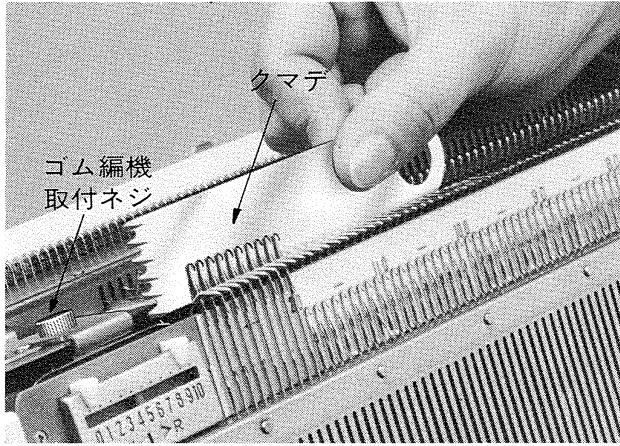
☆ ゴム編機の調整箇所は、前後調整、上下調整、左右調整の3ヶ所ですが、この調整は、最初に1回すれば、あとは必要ありません。

### I. 前後調整

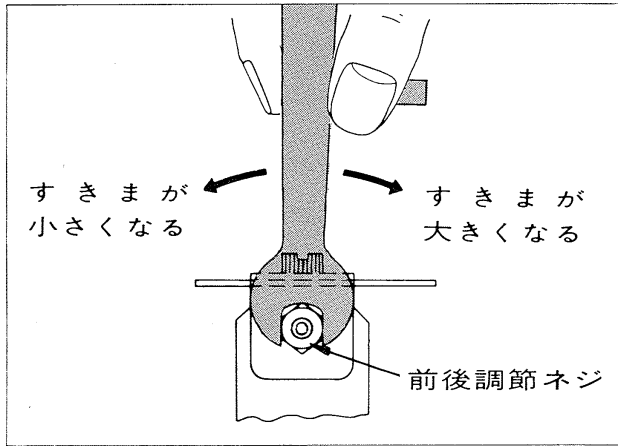


- (1) ゴム編針と本機のクシバのすきまを図のように調整します。

※調整するときは、振り指針を⑤、半ピッチレバーをHの位置に合せて下さい。

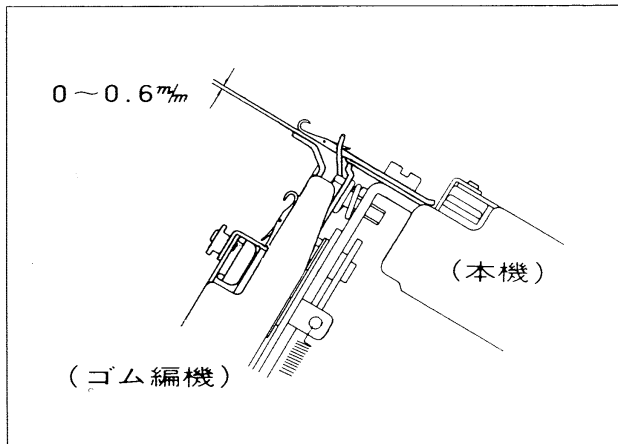


- (2) ゴム編機の左右両端の編針を10本位ずつE位置に出し、本機のクシバとのすきまに、付属のクマデ (0.6mm) をさしこみます。

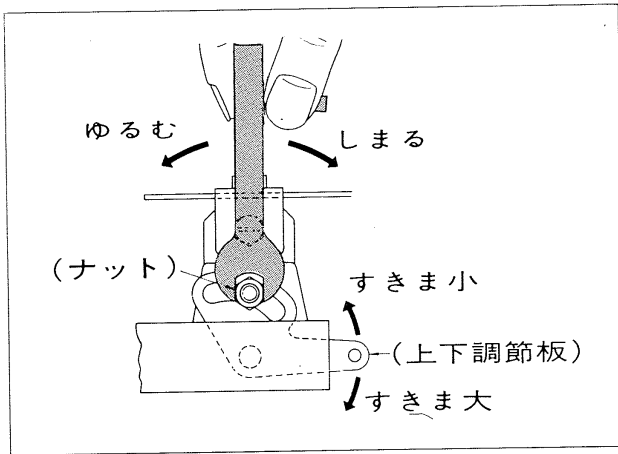


- (3) ゴム編機取付ネジをスパナでゆるめます。
- (4) スパナで前後調節ネジをまわして、クマデにゴム編針と本機クシバが軽く密着するように調節して下さい。
- (5) 調節後、ゴム編針をA位置に下げ、スパナでゴム編機取付ネジを固くしめます。

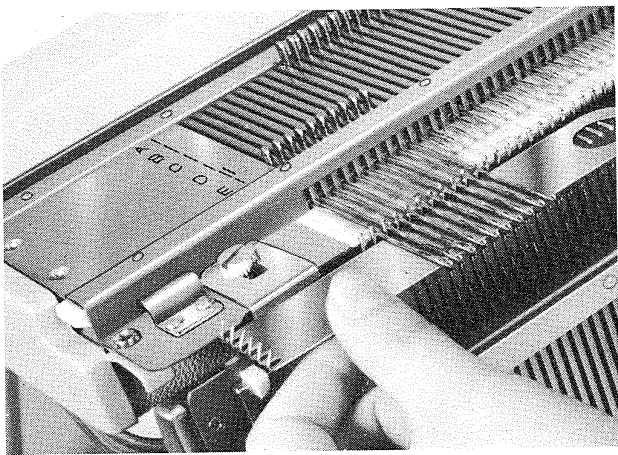
## II. 上下調整



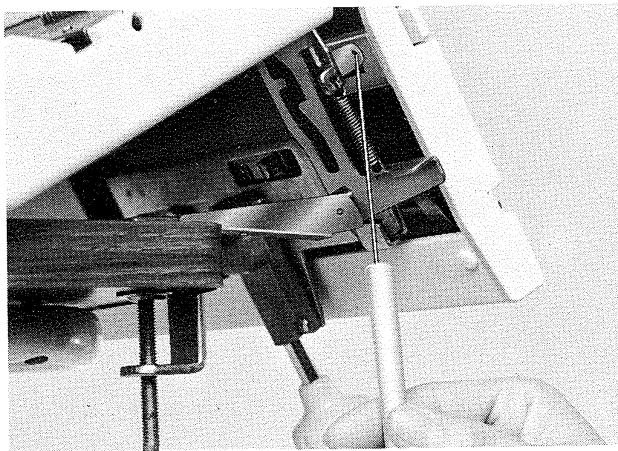
- (1) 本機の編針とゴム機のクシバのすきまを、図のように調整します。
- ※ 調整するときは、振り指針を⑤、半ピッチレバーをHの位置に合わせて下さい。



- (2) ゴム編機を㊦の位置まで下げ、スパナでナットをゆるめて、ゴム編機を㊧の位置に上げます。

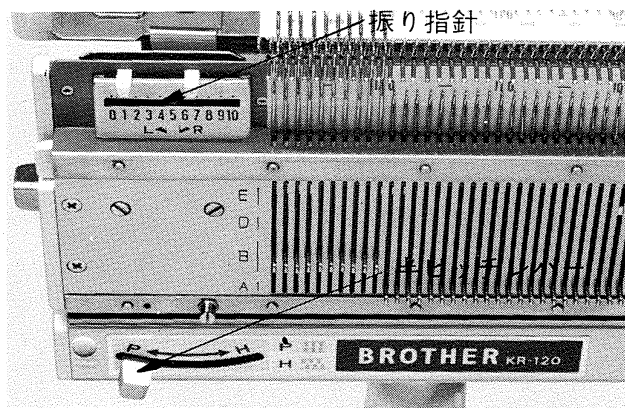


- (3) 本機の左右両端の編針を10本位ずつD位置に出し、ゴム編機とのすきまにクマデを差し込みます。

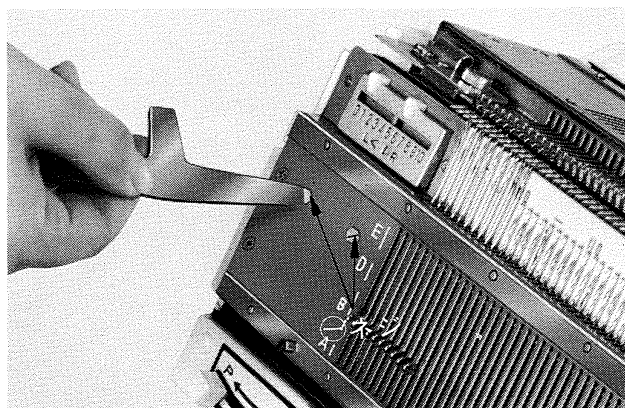


- (4) クマデに本機編針とゴム編機のクシバが密着するように調節して下さい。調節後、再び編機を㊦の位置に下げ、ナットをしっかり締め、㊧の位置に上げます。

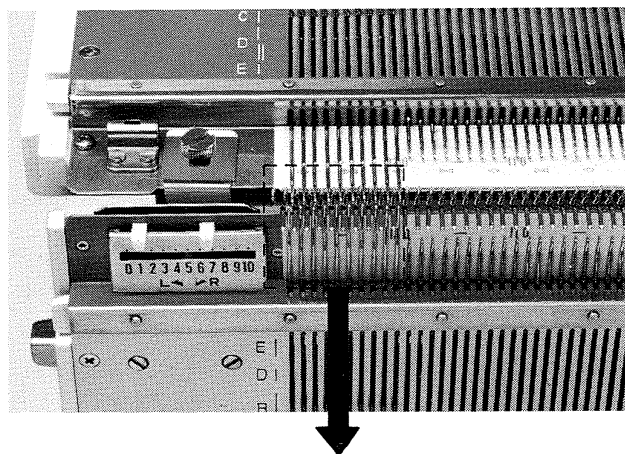
### III. 左右調整



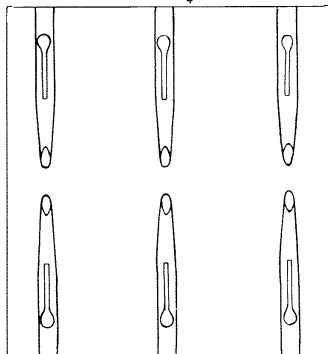
- (1) ゴム機編針と本機の編針が一直線に突き合うように調整します。  
調整するときは振り指針を⑤、半ピッチレバーをPの位置に合わせます。



- (2) ゴム編機ミゾ板左側、E位置マーク左方にある2本の⊖ネジを付属のスパナでゆるめます。



- (3) ゴム機編針と本機の編針が突き合わせになる位置まで針を出して、針と針が一直線になるように、ゴム編機本体を左右に動かして合わせます。  
その後、ゴム編機ミゾ板の2本のネジをしっかり締めつけます。



## 8. 手入れと保存

### ◆注 油

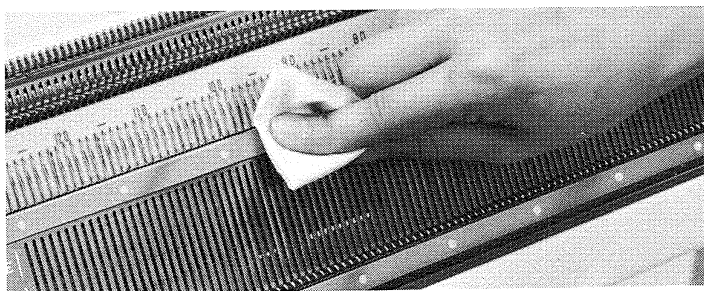
◎ 編む前に軽く注油しましょう。

特にキャリジの操作が重いときは、注油して下さい。



※ 油は本機の付属のブラザー編機用をご使用下さい。

◎ キャップをはずし、胴を軽く押しますとハケに油がしみ出ますから、塗りつけるようにして注油します。



#### (1) 編針のバット……

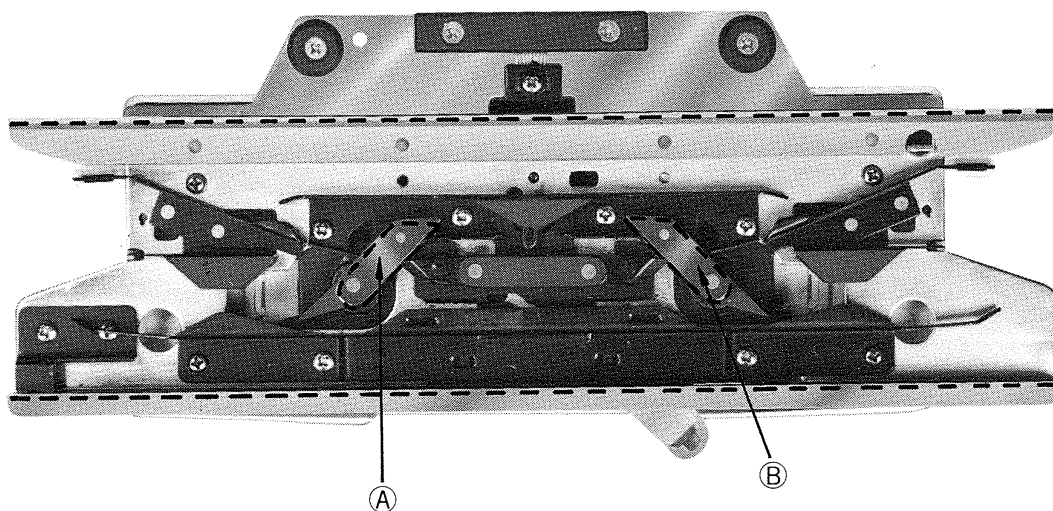
編針をB位置に並べて塗ります。

#### (2) ミゾ板前レール……

布で汚れをふいてから、少し塗ります。

#### (3) ミゾ板後レール……

布で汚れをふいてから、少し塗ります。



(4) キャリジ裏側……布で汚れをふいてから、写真の点線の部分とカム①、②の側面に塗ります。

## ◆保 存

- (1) しまうときは、手バケ・布などでよくほこりを除き、金属部分に、本機の付属の油またはミシン油をうすく塗ります。色がついている部分（ミゾ板カバー、キャリアカバーなど）のよごれは、中性洗剤などを布にしみこませてふきとります。
  - ※ シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリンなどは使わないように注意して下さい。
  - ※ 湿気のないところを選んで保存します。
- (2) 長く保存しておいてから、再び使用するときは、一度油のついた布でよくふき注油してから使用します。

最初は古い毛糸で軽く20～30段総ゴム編をしますと、古い油がとれて作品をよごすこともありません。



|       |                             |                  |
|-------|-----------------------------|------------------|
| 札幌支店  | 〒060 札幌市中央区南三条西 3 - 2 - 2   | 電話<011> 261-6631 |
| 仙台支店  | 〒980 仙台市一番町 2 - 3 - 1 0     | 電話<0222> 27-8870 |
| 北関東支店 | 〒104 東京都中央区京橋 3 - 3 - 8     | 電話<03> 281-4121  |
| 東京支店  | 〒104 東京都中央区京橋 3 - 3 - 8     | 電話<03> 281-4121  |
| 横浜支店  | 〒220 横浜市西区楠町 9 - 6          | 電話<045> 312-8631 |
| 新潟支店  | 〒950 新潟市東大通 1 - 1 - 1       | 電話<0252> 47-7101 |
| 静岡支店  | 〒420 静岡市御幸町 9 - 1           | 電話<0542> 54-2601 |
| 名古屋支店 | 〒460 名古屋市中区栄 3 - 27 - 18    | 電話<052> 261-3271 |
| 京都支店  | 〒604 京都市中京区千本通丸太町下ル西側       | 電話<075> 811-3151 |
| 大阪支店  | 〒542 大阪市南区心斎橋筋 1 - 1        | 電話<06> 252-5321  |
| 広島支店  | 〒730 広島市胡町 4 - 2 7          | 電話<0822> 41-9236 |
| 高松支店  | 〒760 高松市寿町 1 - 1 - 5        | 電話<0878> 51-7341 |
| 福岡支店  | 〒812 福岡市博多区博多駅前 2 - 2 0 - 1 | 電話<092> 431-6561 |
| 熊本支店  | 〒860 熊本市手取本町 8 - 1 宝ビル内     | 電話<0963> 55-7151 |
| 沖縄出張所 | 〒900 那覇市泊 3 - 1 - 2         | 電話<0988> 68-4511 |

◎ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、ご購入の販売店  
または上記支店へご連絡下さい。



**BROTHER**  
**ブラザー**

ブラザー工業株式会社  
ブラザーミシン販売株式会社  
〒467 名古屋市瑞穂区堀田通 9-35  
TEL 代表 <052> 824-2511